

少子高齢化・定住化対策意見交換会（川井自治会）

- 日時 平成 30 年 7 月 2 日（月） 19 : 30～21 : 00
- 場所 川井生活館
- 住民出席者 26 名（男 17 人、女 9 人）
- 町出席者 4 名

●意見交換会内容

（意見） A さん

電車の件で、朝は青梅特快などの接続が良いが、帰りは中央線から青梅特快を利用して青梅駅まで来たときの接続が悪く 30 分程待つことがある。青梅駅からは単線なので、J R へお願いすれば何とかならないか。昔は接続が良かった。また、夜 10 時 30 分頃に御岳止まりの電車があるが、この電車を奥多摩まで走らせてほしい。是非、J R へお願いしていただきたい。

（回答） 町

J R への要望については、毎年、西多摩地区広域行政圏要望で、J R 八王子支社長宛に青梅線の改善要望を行っている。その中で、御岳止まりの話も出している。青梅特快の接続の関係は改善の余地を含めて内容を確認し、引き続き、更に強く要望していく。

（質問） B さん

奥多摩駅が無くなった。S u i c a のチャージもできない、駅員もいない、不便になってしまった。奥多摩駅は町の中心に位置している青梅線の終点の駅である。癒しの町、自然が豊かで魅力がある町であるため、不便になってしまうのはどうかと思う。何か理由があるのか。

（回答） 町

今回の件について、J R から依頼されたチラシを各家庭へ配布している。チラシでは、奥多摩駅では、駅員もいなく切符も買えないようなチラシですが、J R の職員はいなくなりますが、業務委託で係員は残り、窓口で購入する切符は買えませんが、通常切符は購入できます。また、以前奥多摩駅以外では、S u i c a の普及により人件費削減となりシルバーの業務委託がなくなり、その次に、切符も購入できなくなったことも含め、段々と不便になっていることは、町も危惧している。担当課（企画財政課）において改善要望はしている。これについて、J R 東日本からは、中央線なども含めた資源の再配分をした対応と聞いている。生活面から見ると昼間は空気の方が多い状態の乗車率となっているが、観光客の利用も含めて考え、引き続き、再度強く要望し、路線の維持に努力していく。

(意見) Cさん

奥多摩駅は青梅線の最終駅であるのに、お土産を買う場所もなく、お茶をする場所もない、観光の拠点であるので、駅前開発が必要だと思う。自助努力も必要だが、活気ある店舗、消費したくなる店など、活気のある駅前商店街の開発、町の目玉になるような場所が必要だと思う。

(回答) 町

奥多摩マルシェや100縁商店街などを奥多摩駅前で行っている。また、奥多摩駅2階は待ち合いや喫茶ができるようになった。駅前開発については、観光産業課と観光協会でも話し合っているため、話をもち帰り伝えます。

(質問) Dさん

資料17頁の(3)医療費の現状で、国民健康保険への繰入金赤字繰入が4,000万円とあるが、今後も保険料が上がっていくのか。

(回答) 町

この4月から国民健康保険は、市町村運営から都道府県運営へ変更となり、国や東京都からは、赤字を解消するように言われている。公費は決まっているので保険料を値上げするか、被保険者の方々が医者へ掛からないように予防することが抑制となる。

町で実施している特定健診は4割の方が受けているが、他市町村の多いところでは6割の受診率である。健診を受けていただき、重篤な病気の予防につなげ、医療費の削減につなげたい。保険料は徐々に上げなければならないが、同時に予防についても進めていきたいと考えている。

(意見) Aさん

●●に住んでいる方で、転入前から人工透析をしている人がいる。雪が積もった時に、透析へ行くために、町に除雪の依頼をしている。その方は、自治会にも加入していないのに言いたいことをいう。移住して来る方については、転入時に医療の受診内容を調べてから、転入を決定するようにしてはどうか。

(回答) 町

転入の時に、ふるいにかけることはできない。転入前に体調を伺ってから転入の判断をすることはできない。ご理解いただきたい。除雪作業については、町職員で対応したが、地域住民の方のご協力をお願いします。

(意見) Aさん

日本全国、少子高齢化である。どこでも対策を行っている。奥多摩町は若者が来て仕事をするとところがあるのか。誰でもできるような仕事を斡旋すれば若者が住むのではないか。また、高齢化については、小河内ダムの方へ行くと、ポツポツと家が離れて建っている

る。これでは、町での見守りが大変だと思う。学校跡地などを活用しシニアハウスを作り、一人暮らしの高齢者の方に一か所に住んでもらうのはどうか。体育館で予防の体操ができるし、給食設備もある。元気な方が世話をすることもできる。そのような施設を作ったり、週に 1 回の買い物支援などを行えば、若者の人口だけでなく、高齢者人口も増えるのではないか。

(回答) 町

働くところについては、PR 不足であるかも知れません。4 月の移住相談会では奥多摩町の企業も参加している。特別養護老人ホームや多摩学園などは人材が不足している。南氷川のデイリーストアは後継者が見つからずたたんでしまった。雇用環境が改善され正規雇用が増加となり、山間地区に就職する人が少なくなったこともあるが、まずは、地元の企業に勤めてもらいたい。また、起業を考えている方へは、日本語学校やグランピングなどの支援を行った。最近ではテレワークなど自宅で PC を使用し個人経営もできるようになった。しかし、定住を考えている方の 8 割は、仕事を変えないで定住を希望している方である。高齢者の住まいについては、平成 17 年度からの第 4 期長期計画において検討されているが、好きだからそこに住んでいる方がほとんどで、最後まで自宅で住んでいたいと思っている。学校の跡地活用も計画したが、消防法やバリアフリーなどの制限があり、住民のニーズと経費面において断念した経緯がある。特別養護老人ホームが充実しているので、そちらの活用を考えてほしい。

移動手段については、コミュニティバスの検討をしたが、幹線道路を走らせることが制限されており、循環して走らせることができないため難しい。代わりに「地域ささえあいボランティア」事業において、移動支援、買い物支援などのサービスを行っているので、活用してもらいたい。

(質問) E さん

川井の人口ピラミッドは説明されたが、他の地区はどのようになっているのか。

(回答) 町

小河内地区は厳しい状況で人口ピラミッドが形にならない。町ではこの 7 月に、小河内地区の地域おこし協力隊を 3 名採用した。今後 3 年間、小河内地区の活性化を目的に活動をしていただく。

氷川地区も小河内地区同様に厳しい状況である。古里地区が人口ピラミッドの形が一番良い形をしている。日原地区も以前は 1000 人弱だった人口が、現在は 100 人弱となったしまった。西に行けば行くほど厳しい状況である。

高齢化率は小河内地区で 56.4%、氷川地区で 51.8%、古里地区は 45.8%であり、平均は 48.9%です。

(意見) Eさん

中学校の統合で、中学校が氷川へ移ってしまった。奥多摩中学校の場所は、平地であり、近くに温泉やキャンプ場もあり、観光の面で活用できる土地だったのではないかと。学校だけでなく、柔軟に考えてほしい。

(回答) 町

中学校に関しては、小河内地区の事を考え、全体的なバランスを考え、町の中心に位置する氷川中学校を奥多摩中学校にすると教育委員会で決めた。観光の面に関しては、町へ寄付された町有地にグランピングを作ったこともあり、今後も寄付された土地活用を含め、観光産業の振興を長期的に考えていきたい。

(質問) Fさん

若者定住化対策で、転入された方の移住後の感想（声）はどんな感じなのか。

(回答) 町

4月に全戸配布した冊子、若者定住促進ガイドブックに感想を掲載しております。また、若者住宅へ移住された方へアンケートを実施している。住み始めて間もないこともあり悪い話しは聞いていないが、将来的に永住する時の土地や家などの心配、また空家を活用したいという声があります。次に永住するためのステップとして空家活用があります。川井地区にも空家がございますが、是非、空家バンクに登録するなどのご協力をお願いします。

(質問) Aさん

グリーンビレッジは29区画分譲募集し24世帯が入居したが、現在16世帯となり別荘化してしまっている。若者定住化対策事業もそのようになってしまっているのではないかと。

(回答) 町

グリーンビレッジのような民間売買とは違い、若者定住化対策事業は補助金とセットで行っている。転出された場合、一定期間定住されなかった場合は、補助金、延滞金も含めて返還してもらう制度であり、条件のある定住施策となっている。

以上

少子高齢化・定住化対策意見交換会（大丹波自治会）

- 日 時 平成 30 年 6 月 27 日（水） 19：00～20：40
- 場 所 大丹波生活館
- 住民出席者 17 名（男 13 人、女 4 人）
- 町出席者 4 名

●意見交換内容

（情報提供） Aさん

ここで大丹波にも 4 月に 3 世帯入ってきました。自治会の役員としてもバタバタしまして、ご挨拶に行き、移住の条件として入る約束をしているから自治会に入るのだよという話の一方で、こちら側があまりせついても感情的にいい感触は持たないのかなと思いつながりながらお話をしました。そうした日々の生活の中で、ごみの搬出方法など生活に直結しているものについては、自治会にいきなり話が来るといふか、住民からの声として上がってきます。実際「集積場がいっぱいになっているがどうということなのか？」と聞かれたこともありますし、新しい方が入ってくればそういったことが当然増えてくると思います。また、固有名詞は出さないものの何人何世帯が入ってくると聞いていますので、自治会としてお役に立てる、つなぎの役として地域住民とうまくできればと考えておりますし、若者住宅に限らず今でも何軒か入って来てはいますが、そういった方々に自治会としては優しく温かく接したいなと思っています。なるべく地域に溶け込んでもらって、酒の場などを使ってふれあいができ、また環境づくりをするのが自治会としての役目かなと。何なりとは申しませんが、生活に直結するものであれば、そういった部分の情報を流していければいいのかなと。プライバシーのこともありますので、やる気満々というわけではございませんが、やんわりとソフトにやっていければということ考えています。質問というよりこんな状況であります。

（回答） 町

大変ありがとうございます。特に大丹波自治会については今回初めての若者住宅を建てさせていただきました。また情報の共有ということで、固有名詞はなかなか事前の時は出せないで、何世帯でどのような方が来るというような情報で、自治会の方にもご苦労をかけたと思いますが、今後また今言われたことを踏まえまして、なるべく地域に来て、地域の方と触れ合っていただいて、支え合うというのが目的でございますので、なるべく自治会の方には、情報は共有するように今後もやっていきたいと考えておりますので、引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。

(質問) Bさん

1つは奥多摩町というのは広いので、私は基本的には集約化というのがあるのかなと思います。しかしながら非常に難しいという現実も分かっていますけれども・・・集約化というのはある地域に固まってということですが、ただ今更歳を取ってからそちらに動きたくないという現状も当然強いかとも思いますけれども・・・もう1つは魅力あるまちづくりですね。人を呼ぶのではなくて人が行きたいという町を・・・これも非常に難しいことだとは思いますが。全国でそれぞれがみんなやっているかと思えます。それをいかに吸収していくかです。最初から無理だと考えるのではなく、そこを考えていくことが必要だと思います。ある情報ではITで、別に都内でITの会社でなくて徳島でしたっけ・・・あの当時、山の中であるにも関わらず、通信状況はむしろそちらの方が良いということで、若い人を呼んでIT産業の会社を誘致するのがいいかと思えます。これからの企業は製造業とかでは期待できないと思います。進化していく流れに逆行してやっても上手くいかないと思うのでそちらの方向も考えていくことが必要ではないかと・・・話が変わるのですけれども、高齢化になってきて、大丹波地区では車を自分で運転できない、交通手段が難しいところで聞いた話ですが、こういう交通空白地帯は、一般の人が輸送していいという制度が国にあって、奥多摩町も取り入れていると聞いているがどうなのか。タクシーがない、バスも少ないということで、シルバー的なものがあるのかどうか。私もよく知らなかったのですが、現状はどうなのかお聞きしたいのですが。話があっちこっちいってすみません

(回答) 町

それではまず1つ目の「広いので集約化」というお話になります。こちらについては、奥多摩町は過疎地域に指定されていますので、「過疎地域自立促進計画」というのがございます。これは国の特別措置法に基づいて作る計画となっております、その中に今言われた集約化というのもございます。これは地域を今言ったようにコンパクトにしていこうというもので、それに対する国に補助もございます。町といたしましても、そのような部分については検討をしているのですが、やはり地域の方の意向が重要となってきますので、特に以前、小河内地区の方で計画を作るにあたって、福祉的な観点からそういうヒアリング等を行ったのですが、実際には住み慣れたところで生涯を終えたい。というようなご意見が多くて、今、集約化にするとすれば、空き家が点在しているのですけれども、ある一定規模の空き家を活用する場合でも「集約化」というように見込まれまして補助事業の対象にもなります。これは、その場所が基幹地域に指定され、その空き家を改修したり増築したり、ちょっと離れたところからそこに入ってもらうという事業もあります。ただ今のところは、地域の方が生まれ育ったところで住み続けたいという意向が多いので、町としては過疎地域自立促進計画の中で、具体的にまだ見込んではいないという状況です。ただ今後については、1つの検討する材料として、今後見直しの時に内部で検討する材料としては考えております。2つ目としては「魅力あるまちづくり」ということで、本当に最もなご意見だと思います。奥多摩町のまちづくりについては、長期総合計画に基

づきまして、10年間の基本構想、5年間の基本計画、3年間の実施計画で成り立っています。特に魅力あるまちを作ろうというのは、毎回毎回、長期総合計画の中に掲載し、それを実現していこうと町の中では取り組んでいます。今ご提案のありました、まさにITの関係については、今日本全国でうまくいっているのは徳島県ではそのような形で進めていて、奥多摩町については企業誘致の観点と定住対策の観点から、奥多摩町の古里中学校が統廃合したときに検討委員会プロジェクトを立ち上げて、どのように活用していくかということで住民皆さんにご意見をいただいて、最終的には日本語学校として現在行っております。その日本語学校の中にIT企業が入っております、そこでITの関連の今後の事業とか展開については、今ご提案があったような形で連携して、さらに発展ができるような形でいければ、今言われた部分については解消されるのかなと考えております。そのほかに大規模事業というのはなかなか難しい状況ですので、小規模事業者が入って来られるような政策として、小規模事業者の優遇措置があります。これは定住が条件にはなるのですけれども、こちらに来て小規模事業をやりたいということになれば、優先的に町有地ですとか、町が管理しているものを紹介する。また、補助対象要件に合致すれば多少の事業費の補助をする。そのほか、起業に関しては青梅商工会議所と連携しながらやっておりますので、本日いただいたご提案については、当然担当課に申し伝えてお話をさせていただきたいと思っております。次の車を運転できない交通の関係については福祉保健課よりご説明いたします。

(回答) 町

Bさんがおっしゃった「地域ささえあいボランティア」というのを社会福祉協議会に委託して行っております。これは「特別協力会員」と「利用会員」という形で社協に登録していただきまして、特別協力会員は車で送迎するという方、利用会員はそれを利用するという方ですね。30分500円の有償ボランティアという形でやっております。平成29年度の実績としては277件利用がありました。多いのはやはり通院ですね。町内の医療機関であれば、やはり社協に委託しております「外出支援サービス」というので無料でやっていますが、町外の病院というのはなかなか社協でできないものですから、この事業を使っていただいて、行先としては主に青梅市多いですが町内もあって全部で174件ありました。それから買い物ですとか、そのほかで結構あるのが、ペットを飼っていて動物病院に行くための足がないので連れってもらうとか、美容院に行くとか、お友達のお見舞いに行くとか、お葬式に行くとか、そういったケースで使っている方が多いですね。今、会員さんの登録状況ですけれども、利用会員が132名、協力会員・特別会員が53名、186名の方がいらっしゃるということで、大丹波地区では利用会員は7名、特別会員は2名の協力があつて、合計9名になります。別に地区で限定するわけではないので、社協にお願いをして予約をすれば、いつでもどこに行きたいということで社会福祉協議会がコーディネートしてくれます。

(追加質問) Bさん

直接お願いするというのではなくて、社協を通してするのですか？

(回答) 町

社協の方で誰がいいだろうかとどのように探してくれるということです

(追加質問) Bさん

30分500円というのはどういったことで決まったのですか

(回答) 町

タクシー料金に換算すると、30分初乗りで720円ぐらいになると思うのですね。それよりも安く使える金額ということですね。病院とかだと待っている時間が長くなって料金がかさんでしまう場合には、協力会員さんとの話し合いですが、協力会員さんが「待っている間に他の用事済ませてくるからその間の料金はいいですよ」と言ってくれるようなことも聞いています。

(追加質問) Bさん

これからますます高齢化になって、息子とかあるいは誰かが運転してくれるというような方がいるところはいいですが、これだけ単身世帯が多くなって需要が膨らんでくると、毎年検証して、来年度は改正していこうとする姿勢が必要だと思います。それがなくて「決めたからやってください」ではダメではないかと思います。金額の問題もあるし、頼みづらいというのもあるし、ですから良いところは伸ばし、まずいところは変えていくということで、町がリードしていくことが必要だと思います。

(回答) 町

このお金の話ですけれども参考としたのは、「ファミリーサポートセンター事業」という子供の送り迎えだとか見守りというのがあるのですけれども、1回700円という金額で、子供さんを保育園に送り迎えするのがありまして、町の補助としては「子ども・子育て推進事業」の中で、年間7,000円まで出ています。それ以外は負担していただくのですけれども。

(追加質問) Bさん

それは安ければ利用するし、高ければ利用しづらくなってしまいうけですので、そのところをしっかりと見ていただきたいと思います。ボランティアにおんぶに抱っこではなくて、難しいですけれどもやっていただきたい。

(回答) 町

導入した当時としては、「どこか行きたいのだけど足がない」という声がありまして、いつも近所の人に頼んでいるのだけど、ばんたびになってしまうと頼みづらい、あるいはその度ごとにお礼をするのもお金がかかってしまうということで、それであれば、ある一定

の料金で決めてやった方が頼みやすくなるのではないかということで、有償ボランティアみたいな形で、半分ボランティアの精神で導入しました。ですがここ何年かやって改善点も出てきていると思いますので、ご意見を伺いまして検討していきたいと思います。

(質問) Cさん

大丹波に初めて入居された方について、不満とか要望とかは地域サポーター（定住サポーター）が聞いてフォローしていくということですか？

(回答) 町

入居者というのは町営住宅ですか？それであれば入居者が転入されるときに相談がある方、または奥多摩に暮らしたいという方については、何かあれば役場の方に話してくださいということになっています。特に定住相談で来た方については、総合窓口でやっているということをお話していますので、そのような回答をしております。また、町の方に相談しないで直接入られる方も実際にはいらっしゃいます。その部分については、施設を管理している地域整備課の管理係の方で対応しています。あとは移住してきた方でお子さんが居たりすれば、そういうところのフォローについては、福祉保健課の方で母子担当の保健師がいますので、転入してくるとその保健師が必ず家庭訪問をいたします。そのあたりで確認ができるということもありますので、町のチラシですとか制度のものを持って何か相談があればしてくださいという形で現在は対応をしています。

(質問) Dさん

人口動態などの分析を見た中で、地域としては新たな企業の誘致が難しい中で、大丹波地区ではマス釣り場とか他のお店も含めて集客していこうとする姿勢で動いています。その中で町の支援策として、地域と一緒に考えていくことがどこまで出来るのかなど。大丹波地区で言えばイルミネーションでも、誘致ではないですけど町を明るくしようとして出発しております。そういうところを継続していく中で、年齢も上がっていき尻すぼみになっているのが実態なのです。しかしそういったことを盛り上げるためには、町全体でやっていくようなことが必要なのではないかとこのころがあります。そこで、町の力を借りたりする、あるいは新たな手があればお教えいただければと思います

(回答) 町

まずマス釣り場関係については「内水面事業」として、町の観光産業課である程度の補助ですとか支援とかがあるかと思っています。以前あったイルミネーション事業については、当時のまちづくり事業の補助金を活用してやっていただいたかと思っています。今、「元気なまちづくり事業」ということで自由な発想で地域の方がものをつくる補助金があるのですけれども、現在は企画財政課の担当となるのですけれども、この事業は3年に一度必ず見直し、再構築し、評価していく。今年がまさに評価をして新しく再構築をしていくような時期に来ておまして、現在、委員会の中で新しい委員さんを募りまして、これから再構築

していくということで準備をしておりますので、そのような事業なども一緒に活用していただければと思います。ただ地域全体というマス釣り場を中心とした事業のようなものについては、持ち帰って観光産業課にもお伝えをさせていただきたいと思います。

(質問) Eさん

9ページの新聞記事ですけれども「(1) 就労」の「町内12事業者参加」となっておりますが、業種別で何種類あるのか教えていただきたいのですが。

(回答) 町

町内12事業者についてですけれども、まず福祉の関係で特養、特に多摩学園を含めた福祉の関係の施設。それと観光事業者ということでグランピングの会社ですとか、奥多摩総合開発ですとか、町内の鉱工業いたしまして奥多摩工業、昭和石材。それとジェリーフイッシュという日本語学校。あと1事業としてヤマザキデイリーストアがあったのですが、人手不足で閉店しております。それにつきましては、ヤマザキデイリーストア本部としては、今後も残していきたいということで、一緒に相談をしております。それと小河内振興財団に来ていただいております。それで12事業者になるかと思えます。

(情報提供) Fさん

先ほどの支えあいボランティアですが、今は私とEさんの2名で登録しているのですが、以前から登録しているので、もう何回も大丹波の方を眼科や総合病院、美容院に送迎はしたことがあります。先ほど町が言われましたように、今は少人数だからいいですけど、これから5年6年経つと高齢化が進んで、さらに利用したい人が増えてきて、またそれを支えるボランティアも必要になってくるかと思えます。その時には今の2人ぐらいではしょうがないので、もっと増やした方がいいのではないということが出てくると思います。また、若くて健康な方が率先して社協の方に登録されていくことが必要だとも思えます。今の利用会員は7、8人が登録されていますが、最初に登録された方が仲間同士の中で、これに登録して利用するとどうなるか、また利用料はどうかなど話が広がっていき、下手にお礼をするなんてことはしなくていいのですよと、次々に登録された方もいます。これから助けてもらう方が増えてくれば、支える方も必要となってくるでしょうから、地域の中で率先してやっていただきたいなと思えます。また別の話ですが、都内の混雑した墨田区とか千代田区とかの人口が密集している地域で、民生委員が訪問した場合、近所に住んでいる人がお互いに知らないという状況がある中で、あるときに行ったらお話しできたけれども、次回に行ったときはもう転居していないなど、そういったことに直面することがあるそうですが、奥多摩の方の山間部では人口密度が低いので、人をみんながある程度知っていて、あの人の姿が見えないだとか、あの人はいつもこっちを歩いてくるのだけど最近見えないとか、そういったことが地域ぐるみで見渡せるといった利点があると思うのです。都心はそういったことが全くないので、地域で一番大事なものは高齢化が進

む中で隣近所とかが大事となってくるし、地域で何か暗い表情であったりした人が居たら、自治会長さんなり町議さんなりが町につなげていくということが大切なのかなと思います。

(回答) 町

ありがとうございます。支えあいボランティアについては、先ほどBさんから今まで知らなかったと、まだまだそういった方がかなりいらっしゃるということでしたが、私どもでは何回も広報に載せたり、全戸配布を行うなどして広めているつもりですけれども、なかなか周知がされていないなということを改めて感じたところでございます。改めて社協とも相談しながらこの事業の周知徹底、改善などもやっていきたいと感じております。併せて大丹波自治会におきましても、ぜひ利用会員さんも勿論ですけれども、協力会員さんの登録もお願いしたいなと思います。それから2点目によく市町村というか「基礎自治体」というのですけれども、国や東京都から「顔の見える関係」という言葉がよく使われますが、奥多摩町などはまさに「顔の見える関係」なのですけれども、Fさんがおっしゃったように区部とか大都市ではなかなか「顔の見える関係」にはならないのです。それは個人情報保護のこともありますけれども、そういった面では奥多摩町はいい点でもあり、またプライバシーが守れないというところもあって、若い方などは嫌がるということもあります。ほっとするような住みやすい町であればいいのですけれども、Aさんの言われましたとおり、優しく迎えるという環境づくりが大切だと思いますので是非続けていっていただきたいなと思います。

(質問) Eさん

青梅か河辺かで広告が回ったのですが、支え合いボランティアのようなもので、利用料を計算してみたら、かえってずいぶん高いものになってしまったということがありまして、500円という相場が安いと感じるかという、年金暮らしの1人暮らしではきついと言うのですよ。だけどもある程度相場がないと先ほどの話のように遠慮があったり、かえって使わなくなったりしてしまうので、そこで変なことを言ってしまうかもしれませんが「健康ポイント」でポイント還元みたいな感じで、病院通いながらも参加できたらいいのではないかと。ポイントあげて還元してあげて、利用料を250円ぐらいまで落としてあげるなど極端な話ですが……。

(追加情報) Bさん

この2日前に読売新聞で2km300円、そのあと1kmごとに100円ずつとったということがありました。利用料の設定はその地区ごとに事情があるのでしょうか……

(回答) 町

ポイント制度についてはEさんから前から提案をいただいておりますが、町の方で検討はしているのですけれども、いろいろな所と調整をしなければなりませんので、まだそこまでいっておりません。すみません。別に忘れたわけではありませんし、そういうことも必要だなと思っております。

(質問) Eさん

ちなみに乗用車で送るだけなのですが、軽トラックで自分も乗って、中には荷物も運びたいという方が出てくるのかなと。一人暮らしでゴミなどを運ぶなど本人と荷物を運ぶというニーズが出てくるのかなと思うのだが、タクシーより使い勝手がいいのではと思うがどうでしょうか。

(回答) 町

当然そういうのはあると思いますね。例えばカインズホームに行って、行きは空身だけど帰りは荷物を載せていきたいというのがあるでしょうね。

(追加質問) Eさん

この間、まさにカインズホームで肥料を買って、その人とともに乗せてきたというのがあったので、今後そういうことが出てくるのかなと思いました。そういうのも是非入れていただければと思いますので、いろいろな意味で早くお願いします。

(回答) 町

そうですね。いろいろ改善すべき点があると思いますので・・・

(質問) Dさん

私、税金のことをやってきたので、若者から子育ての対策、また高齢者と色々な方に広く公平に充実してやっていくということはいいことだと思います。しかし、奥多摩町は一番生産年齢の人口がないわけですから、そういった人たちは自分たちがどれだけ還元されるか考えると、奥多摩町にいたら恩恵が受けられるのかなという不安があるのですね。また交通アクセスの問題とか、高齢者を支えていこうとする人たちもいるのかもかもしれませんが、実際にこれだけいなくなるということは、こういう対策の中で支える人たちへのメリットというのが衰えてきているのではないかと思うのですね。時代として。やはり高齢者の中でも裕福な方もいるわけですから。そういったことを含めて町としての議論は何か出ているのですか

(回答) 町

まず若者世代が出て行ってしまう。町に魅力がない、メリットがないということは1つの理由だと思います。その中で若い方に積極的に奥多摩に住んでいた方が自分にとっていいことなのだ、という思いをするために子育て支援というのがあって、まさに若者世代に経済的に軽減をすることで、奥多摩町で暮らす方が子育てしやすい、暮らしやすいというような部分があります。それは子供がいない家庭でも補助の対象にはなっているのですけれども、家のリフォームですとか改築等についても、35歳以下の方であれば利子補給も含めて対象となっております。それと若い生産年齢人口というのが64歳までということですが、実際には補助とか支える世代への助成というのはだいたいおおむね50歳となっておりますので、もしかすると50歳以上で64歳以下の方については、意外に何

もないということによくご質問されます。ただ公平公正という形で税というか所得の考え方でいったときには、この制度を作ったときの50歳以上の方の所得が非常に高い世帯が多かった。また、この制度を作った時が就職氷河期と言われる時代で、景気が悪い時だったのですが、その時のアンケートのよると、経済的な負担で子供を産み育てることが難しいというのがあった。年齢が若ければ若いほど所得がなかったことから、非正規雇用が多くて結婚も考えてしまう、子育ても考えてしまうということがあったので、子育て支援事業に力を入れて若い方を支援していこうというのがありました。その部分で言うと50歳から64歳までの方というのは、若干制度の合間になってしまうというのは正直あるかと思えますので、今後はそのような方にも将来的には支えてもらえるという最終的にはメリットになってきますので、普及啓発していきたいなと考えています。

(質問) Eさん

この説明会も折り返しというところだということですが、他の自治会の参加者は比率的には似たり寄ったりなのでしょうかね？

(回答) 町

参加率ですよ。小さい自治会の方が割合で言うと高いです。大きい自治会ほど参加の割合が低い傾向にあります。今回の意見交換会については。

(追加質問) Eさん

若い人は少ないですか？

(回答) 町

そうですね。若い方というのは非常に少ないです。ただ古里地区はPTAの関係の意見も出したいということで、子供会の方やPTAの方も来ていたので、小丹波地区は若干若い方が多かった傾向があります。あとは比較的若い方がいない地域を回ってきましたので、なかなか若い方が参加していなかったというのが実情です。

(お願い) 町

先ほどからいろいろ出ていると思いますが、空き家の関係についてお願いさせていただきたいと思います。冒頭でご紹介のあったとおり、3名の方が大丹波のサポーターということで、ここ何年か空き家の状況調査をさせていただいております。直近の数で行きますと、この平成30年4月1日現在で大丹波地区12件の空き家があるということで確認をさせていただいております。今後の動向については、サポーターが皆様から情報を聞きながら調査をさせていただくことになろうかと思っております。これまでは今まで空き家の活用という視点で、主に空き家の状況確認をさせていただいたのですが、今年度は危険な空き家があるのかなのか、また空き家があることによって周辺の皆様にご迷惑をかけているものはないのか、そんなような視点を含めてサポーターの方に調査していただきますのでご

協力をお願いしたいということと、是非、空き家を所有されている方が近くにおりましたら、町の空き家バンクの方に登録して活用できるように働きかけをしていただければ助かるなと思いますので、よろしく願いいたします。

(情報提供) Gさん

今日は町の職員ということではなくて、PTAと消防を兼ねて皆様にもご理解をいただきたいというところで、少しお話をさせていただきたいと思います。大丹波にここで3世帯入ってきたというところで、1世帯が小中のお子さんが居るということで、4月28日に小中合同の歓迎会を行いました。5月に奥多摩中の運動会と古里小の運動会があるということで、その前に顔馴染みになっておこうと合同の歓迎会をしたところです。また、来月には盆踊りもありますし、8月にはお祭りもありますので、だんだんに慣れていってもらえたらなと祈っているところです。先ほど町からの説明の中で人口ピラミッドの状況を見ましたけれども、自分の「ささら」の親方をやっていた中で、町全体を見ると獅子舞のささらは女の子というところがほとんどです。けれども大丹波については男の子でもっているところで、今後5年10年で考えて獅子を確保していくことを考えると、ささらは女の子を確保していかなければならない。ギリギリまで男の子で獅子をやっていって、いずれはそういったところも考えていかなければならないのかと個人的には感じているところです。一方で消防団でありますけれども、川井と一緒に2班となり、今16名の登録で実動10名ちょっとというところでやっています。皆様の記憶にも新しいところで今年3月8日の建物火災があったときには、日曜日の午前中であつたのですけれども、たまたま仕事であつたり出かけていたりというところで、詰所に来られたのは私と●●副部長の2名しかいない状況でした。そんな中で自治会の皆様にご協力をいただいて、何とか山林火災までには至らず、初期消火にあつたっていただきました。この場を借りて御礼申し上げます。消防団員の確保ということと言いますと、若者住宅の3件については入居期間も決まっているということもありますし、年齢的なこともありますので、まずはPTAから馴染んでいただければなと考えています。消防団をどうするかは、今後、盆踊り・お祭り等が近づく中で考えも聞きながらということになります。町全体の消防団員を見ると、大丹波はまだまだいる方ですけれども、いざ有事の時にことを考えると団員数があるにこしたことはないなと改めて感じたところですので、自治会の皆様と連携をしながらやっていきたいなというところです。

(回答) 町

まさに地域で支えあいながらやっていただけると助かります。特に入ってきた方については、入るまでの間に相談を受けると、いろいろなことで不安があつたり、移住してくる事になかなか勇気がいることですので、今のような形で徐々に支援していただくと移住してきた方も助かりますので、まずはちょっとずつ移住して来た方に対応していただければ、非常に町としても助かりますのでお願いをしたいと思います。最終的には消防団員

の問題についても入っていただければいいのかなと思いますが、その部分についても相談を受ける中で不安だという移住者の声もあります。やっぱり自分も世帯を持って初めて自治会に入るときは、奥多摩で育って奥多摩に就職しても、世帯を持って自治会に入るのはなかなか色んなことがあったりします。まさにIターンで全然知らない状況でなかなか勇気いりますし、不安になったりするということもありますので、今、Gさん言ったように、そういった観点から徐々に信頼関係を作っていただけると助かると思いますので是非よろしくお願ひしたいと思います。

(情報提供) Fさん

私は今子育て支援部にいまして、研修とかで気づいたことですが、今どきの若い夫婦の間で赤ちゃんが生まれます。生まれたばかりの赤ちゃんとお上の子が居たりするとお母さんはフル回転で日常的に大変になるわけで、日本では父親が乳児を見るということについては、世界的には遅れていると言われてます。そうすると母親の負担が大きくなり、お父さんの帰りが遅いと子供の世話をし欲しかったと不満が募って、時には角が出るようなことが起こるそうです。世界的にみるとほかの国は進んでいて、日本のお父さんは仕事やら何やらで遅くなり疲れ果てているそうです。そうするとできることは入浴ぐらいですか。赤ちゃんをお風呂に入れることはしてくれるのですが、「出るぞ」と言えば、あとはお母さんにお任せということで、とりわけ何もやってくれない。そういったことが日本は遅れているというお話がありました。そういったことから関連してお母さんの負担が多くなって、子育ての時期にはお父さんが協力してくれないかなというところがあるそうなので、そういったところが問題点かなと思いました。

(回答) 町

そうですね耳が痛い話であります。昔のお母さんは結構我慢してやっていたし、家族構成も3世代で暮らしてお姑さんがいたということもあったのですが、今は2世帯で自分たちだけでやらなければならないということ、どうしても奥さんの方に負担がかかってしまうということで、今は共稼ぎの家庭も多いということもありますので、お母さんは仕事をしながら、子育てもしながら、家事もしながらすごく大変だと思います。行政の方で何ができるかというと、例えば子ども家庭支援センターで相談員さんがいるのですが、家庭の悩みの相談に乗るとか、臨床心理士の先生に相談をされるとか、そんなことしか出来ないのですが、なかなか難しい問題ではあります。また、最近では子供の声がうるさいという方もいるかと思いますが、子供がいるというのは活気づいていいことですので、是非地域の方みんなが尊重していただければ助かります。

(質問) Eさん

定住化の条件の中に地域の中に溶け込んで自治会に入ったり消防団に入っていただくなどの条件を提示したときに、それじゃ嫌だという事例はありますか？

(回答) 町

町の住宅にはいくつかありまして、所得で分けると公営住宅と町営住宅の2つがあります。公営住宅にはそういった条件は一切ありません。町営住宅には町営若者住宅、高齢者用の住宅、母子の住宅、ファミリー住宅の4つがあります。この中で町が条件を付けている住宅は町営若者住宅のみになります。それ以外の住宅については、自治会の加入、消防団への加入のPRはしていません。町営若者住宅に限ってですが、一定のお家賃を安くして代わりに年数制限をするということもありますので、当然地域の活性化という部分もありますので自治会には加入していただきます。消防団員については出来る限りということでは任意でのお願いになります。総務課が交通防災の担当になりますが、ニュアンスとして消防団員はあくまで任意加入ということで、その中で地域と信頼関係を築きながら極力入っていただきたいというのがあります。ただ自治会に入るのが嫌だから募集をしないというようなことは聞いてはおりませんが、今のは町営住宅なのですけれども、いなか暮らし支援住宅とか若者応援住宅につきましては15年経ったら無償で譲与するものであるもので、その部分の方については、町営若者住宅より地域での活動が上手くいかないと事業として難しくなるので、町営若者住宅が書類上、条例で定められているとおりの問題がなければ入れるのに対し、いなか暮らし支援住宅とか若者応援住宅につきましては何度かのやり取りをします。これは基準があったとしてもキャッチボールをして選考するという形になりますので、地域の自治会に入ることは必須条件としています。その中でたまに消防に関しては相談があり、「不安に思うところは何ですか」といった調査項目に「消防団が不安」と書いてくることはあります。

以上

少子高齢化・定住化対策意見交換会（梅澤自治会）

- 日 時 平成 30 年 6 月 21 日（木） 19 : 00～20:50
- 場 所 梅澤コミュニティセンター
- 住民出席者 14 名（男 7 人、女 6 人）
- 町出席者 4 名

●意見交換内容

（質問） Aさん

高齢者の方については（一般会計から）年額一人当たり、144,900 円という説明があったが、子ども一人当たりについては、いくらかかっているのか。

（回答） 町

子どもとは、高校生 3 年生の 18 歳までとなり、平成 29 年度は対象者が全員で 463 名であり、一人当たり約 92,000 円となります。平成 29 年度の実績額は 4 千 3 百万円であり、予算額と実績額は一致しません。9 千 7 百万円の少子化・定住化事業の予算内容については、リフォームに対する補助金や空き家対策事業費も含んでいる額となります。

（質問） Aさん

3 年前に●●さんが転入して活気が出てきた。一家の転入については、報道や広報等で知ったところであり、梅澤自治会に直接事前に情報がなかったと記憶している。転入の話聞き、自治会が窓口になるよりも女性の方が良いだろうということで梅女会を発足した経緯がある。実体験も含め、転入者にとってその地区で受け入れられるかが一番不安であると思うので、地域の中で受け入れのためのソフトというか、地域のコーディネーター的役割の人が必要ではないかと思う。

（回答） 町

この事業を一番初めに梅澤でやるということで、事前に自治会長に相談をさせていただき、自治会長から梅女会を発足させるというお話をいただいていた。現在も、転入者について必ず事前に自治会長に連絡をし、各自治会で対応が違うのでどういう形でやっていこうかと相談をさせてもらっています。

（質問） Aさん

定住サポーターの方を知らなかった。定住サポーターの役割は。

（回答） 町

空き家などを調査する者として、現在各自治体に配置し空き家調査をしています。梅澤自治会の定住サポーターは、●●と●●になります。

(質問) Bさん

梅澤自治会の人口ピラミッドを見ると、子どもが転出していて、子どもを産む世代がないので、人口が増加する要素がない。移住してもらわないと増加しないが、なんで町に住まないのか、活気が年々なくなっているように感じる。このままであれば、自治会組織もままならない状態になっていくと思うので、空き家対策だけでなく、定住サポーターには自治会のいわゆる御用聞き的な立場になってもらいたい。ゆくゆくは、町職員に自治会の事務をやってもらうようになるところもあるのではないかな。

(回答) 町

移住してもらわないと、という話がでましたが、人口増のためには大規模開発等が必要かと思いますが、町内には用地がないので難しい。今ある空き家をそのまま放置すると危険空き家になるが、それを活用することで定住対策事業の資源の一つになるので、空き家対策をすることが一番の近道ということで空き家対策を実施しています。また、子どもが家に戻ってこないという状態については、新しい方に移住してもらわないと衰退に繋がると思います。定住サポーターについては、自治委員会場で自治会長に、相談事があれば言って欲しいと話していますが、役場の職員だけでなく、地域全体でこの問題を考えていかないと10年20年後は、無くなってしまいます。そのためにも、梅澤には梅澤の、小丹波には小丹波の問題等がそれぞれあるかと思うので、今回意見交換会を開催し、未来に向けてどういう事業が必要かということで考えていけたらと思いますので、一方通行ではなく、役場職員と自治会の皆さんと一緒に協力しあいながらやっていきたいと思っています。

(質問) Aさん

先日町から来たアンケートについては、色々書いたが、その扱いや公表について、またそれが何に使われてどういう効果があるか、いつも疑問を感じる。

(回答) 町

先日のアンケートは抽出により行っていますが、主旨、目的についてはアンケートの最初に記載がされています。公表については、ホームページや図書館でも見られるよう公開している。どのように活用するかという点については、まず住民皆さんのご意見を数値化、統計化し、全職員に配布をしています。その中で企画財政課企画調整係が中心となって、住民の方の考えていること等に対策を講じている。実際には、毎年策定している実施計画に反映しています。今回の意見交換会開催もアンケート調査の結果で、定住対策や子育て支援、高齢関係の意見が多くあったことから現状を知っていただくために実施しているところです。

(質問) Cさん

アンケート調査について活用をしていると聞いたが、実際実施されているものがあるのか。この意見交換会がスタートなのか。他にやっているのであれば、具体的に何をやった

のか。

(回答) 町

例えば、子どもの施策については、経済的支援があれば助かるということで、子ども・子育て支援事業を実施している。また、高齢者の方が交通の面で、買い物に行きづらいということで、地域支えあいボランティア事業という全国でも珍しい新しい事業を始めている。

(質問) Cさん

やった。やった。という割には具体的に見えてこない。今後アンケート結果を踏まえて実施したということが見えてくるような方法を取って欲しい。アンケートを一方的に行い、意見は聞いていますとしか受け取れない。何をやっているのかと思ってしまう。なので、今日の意見交換会がスタートなのかと思ってしまった。また、新しく人を増やすための若者住宅の他に何か行っているか。

(回答) 町

若者住宅事業、分譲地事業のほか、空き家を提供していただき、空き家を利用したい方に提供する空き家バンク事業ということで、ハードについて3つの事業を行っている。

(質問) Cさん

それらの事業の成果はでているのか。

(回答) 町

成果については、本日資料の8ページにあるように、これらの定住対策事業により総人口の8.5%が定住人口であり、人口の増につながっています。数字的にはこちらが成果です。目に見えないところでは、定住応援補助金といって、リフォームや建て替え時に200万円の補助金があります。そちらは年間10件程度利用があり、そのような効果がでてきていると思う。

(質問) Cさん

なんで人が増えないのか、町に魅力がないし、仕事があるわけでもない。地域で考えて行くのもいいが、自治会ではそこまで力があるわけがないので、役場でリーダーシップを取って欲しい。例えば、新しい事業を作る場合、雇用部分について何か考えているのか。

(回答) 町

雇用の部分については、まずは町内企業の活性化が第一と考えており、相談会も一緒に行った。福祉関係では、4つの特養が町内雇用の大きな場となっている。就労については、なかなか人が集まらないということで、町内企業の人事の方と連携をとり、まずは転入者に案内をしています。新しい事業では、企業誘致ということで、町有地を活用したグランピング事業や、古里中学校の跡地を日本語学校として雇用の場としています。大規模なもの

だけでなく、個人事業者に対する支援ということでは、小規模事業者の優遇措置制度を作り、就労相談に来た人に町有地や物件を優先して活用してもらう制度、補助金の制度の他、青梅商工会議所の起業支援と一緒に各種支援をおこなっています。

(質問) Cさん

もっと住民の目に見えるような、住民を巻き込んで実施してくれるのが役場の役割だと思う。魅力ある町づくりをやって欲しい。また I ターン、Uターンと言っているが一人でも住民を増やすのであれば、まずは役場職員から、そうすべきではないか。何パーセントの職員が町に住んでいるのか。

(回答) 町

職員は約 130 人弱で、職員の約 60%弱の職員が町に住んでいます。その部分については、他の自治会からもご意見をいただき、真摯に受け止めております。町長もこの問題については、町の職員採用時に町外の人を採用することが多くなっているため職員住宅を作り、若い職員が住めるようにし、さらに消防団と自治会に加入をするようにと話をしています。

(質問) Cさん

地区担当がいることを先ほど初めて知った。アピールが下手だと思う。そういう人がいるのであれば、もっと積極的に梅澤であれば 2 か月毎に定例会をやっているのだから、そこに顔を出して、みんなに存在を知らせ、意見を聞いて欲しい。

(回答) 町

6 月にサポーターの改正があったところではあるが、知られてなかったのは残念。全 21 自治会に定住サポーターがいて、今までも自治会長と相談させてもらいながらやってきているので、持ち帰り相談をさせてもらいながら、もう少しコミュニケーションがとれるようにしていきたいと思う。

(質問) Aさん

先ほどのリフォーム補助金についてもほとんどの方が知らないと思う。

(回答) 町

そこが非常に難しく、周知の仕方については、年に一度パンフレットを全戸配布させていただいています。また広報やホームページでもお知らせしておりますが、なかなか周知されないということで、どのように周知するのが良いのかなと思います。

(質問) Bさん

広報を出しても全員見るなんてことはありえないので、機会あるごとに周知をして欲しい。町内転居について、小河内から古里地区等へ転居するということか。

(回答) 町

分譲地を買われた方ですが、栃久保と棚沢、川井がありますが、大抵は西から東へ動く方が多い。町に関係ない人は、町内で西側に住む方もおります。

(意見) Cさん

介護施設等の職員が見当たらないという話ですが、今朝のNHKで自分の身内が施設に入所したことにより、その施設で働き始めたというのをやっていたので、そういうのも参考にしたらどうか。また、自治会の意見を吸い上げる担当者を作って、地域から意見を吸い上げて欲しい。

(意見) Dさん

今、役場の方に色々と押し付けていますが、冷静に考えてみると、自分の子供達が町を出ていて、それを引き留めなかった私達親にも責任がある。それは部落全体で考えるべきだと思う。今の話を聞いていると、それを町に押し付けている感じがする。部落の人たちでもっと梅澤のことを考えて町にそれを提案する、それに町が答えを返すということをしなないといけないと思う。雇用の問題もある。今の子供達は高学歴。町で介護職やりましょっていても難しい。地域のことは、もっと地域の人たちで話し合わなければいけない。

(質問) Eさん

梅澤では3年前から自治会総会の時に梅澤の10年後を考えるとということで提案している。まず梅澤に住んでいる人たちが梅澤の現状を知り、10年後に向かって一人一人がやれることをやっていく。梅澤がやらなければならないことと、町がやることは違う。使い分けが必要。自治会と町、どっちがかけてもいいものにならない。若者が入ってくると地域が変わる。●●さんが入ってきて地域が変わった。女性が梅女会を作りすごい活動をしている。地域全体が明るくなった。その中で一番の不満は若者住宅がなぜ梅澤地区に出来ないのか。努力をしてやっているが、町に理解されていないように感じる。最初に古里に出来て以来、川井、大丹波、また古里、棚沢と梅澤が取り残されているように感じる。どういう基準で建てているのかを知りたい。梅澤にそういう住宅を持ってきても、ダメな地域だからだと思われているのかと、少しひがんだ見方をしてしまう。また、奥多摩全体で、地域も含めて女性を大事にしていない。女性の活躍の場がない。人口の半分は女性。能力もある。地域が閉鎖的でなかなか意見が通らないというところがあると思うが、そこを変えるだけでも町がずいぶん変わってくると思う。町の幹部職員の中にも女性の職員を増やして欲しい。女性も大変だし受ける人もいないかもしれないが、町でやらないと企業も変わらない。町も積極的に女性を登用し、意見を聞き、政策をやっていくことが今一番大事だと思う。

(回答) 町

町営若者住宅を作るにあたってまず、用地問題がある。古里地区については、寄付をして

もらった町有物件。町有地を活用するのが一番経済的であり問題がない。小丹波第1第2と鳩の巣は寄付物件でした。まずコスト面から考えても町の土地に建てていきたいというのが事実。梅澤でも1件用地提供をしていただき、そこに定住対策用地として計画をしていたが、自治会からの要望でその用地を道として活用したいということで、現在保留となっている状況です。また、空き家については、解体すれば用地として活用できる。その寄付をいただけるところを中心にやっています。女性の活躍については、役場の管理職については、試験制になっていて、強制ではないので、手を挙げないと昇格しないというところで、非常に比率が低いのは事実なので、このことは持ち帰りこのようなご意見があったことを伝えていきたい。女性の活躍する場については、職員に限らず、町の計画では各委員会等で登用していこうと取組を行っている。

(質問) Eさん

用地提供された土地が保留となっているのは知っている。ただこのままだと、どんなに頑張っても地域として成り立たなくなってしまう。そういうところについては、原則はあるにしても、必要であるならば、土地を買ってでも住宅を作る必要があると感じる。これは地域がなくなってからでは遅い。21自治会が10年後も20年後も人口が少なくなっても、あり続けて欲しい。女性の問題については、色々な問題があると思うが町が積極的に活用をしていかない限りは、民間がこの奥多摩の地でやっていけない。失礼な言い方ではなく、30~40代の女性がどれだけ町にいたかがこれからの勝負。町も梅澤自治会の女性も頑張っているの、ほかの自治会にも広げて欲しい。女性の力で町が変わっていくということもあると思う。

(回答) 町

自治会長にお願いがあります。いつも最後に話をさせてもらっているんですが、今土地の提供、空き家の提供については、基本的には寄付物件から行っているわけですが、購入するということが実際あります。ただ町の単価が低いのでご理解いただけない場合があります。空き家を所有している方には是非活用していただきたい。空き家バンクはご自身の希望の値段がつけられます。町からの空き家の所有者にアプローチをしていますが、なかなかお返事をいただけません。本日この会に出席されていない方で空き家をお持ちの方がいれば、是非空き家バンクに登録をしていただきたく是非自治会からも口添えをお願いします。

(質問) Bさん

要望があります。●●さんの家屋の寄付と一緒に上の山の部分も寄付をされていると思うが、そこに古い車庫がある。それが傾いているので対応して欲しい。寄付されたはいいけれど、町は土地をきれいに管理して行って欲しい。鳩の巣の材木屋のところもツタが生い茂っているし、梅澤の道路もまだできないのかと自治会で草刈りもしているの、早く

解消して欲しい。

(回答) 町

車庫のところは、早急に確認し対応したいと思いますが、鳩の巣のところは、土地だけの寄付なので、担当課と調整します。

(質問) Fさん

福祉保健課の説明で「自然とともに暮らしつづける」という言葉があったが、自然を開発していいのであれば、雇用をふやすということもできるが、自然を崩してよいのかなと思う。4人の子どものうち、一人が自然の良さに気づき、将来戻ってきたいと言っている。少子・高齢化の問題は、奥多摩だけの問題だけでなく、国や世界中の問題でもあるので、国の力が必要。ノルウェーやスウェーデンはどんどん子どもを産むようになっていく。それには企業で努力することや、町、家族、個人で努力することが必要。町の助成事業も国でやらないといけないことも沢山ある。雇用を増やす、観光客を増やすためにできることは色々ある。桜山やアジサイ山を作るとか。他の湖のように奥多摩湖に黒船やスワンを浮かせたい。奥多摩湖は水道の関係で水を汚してはいけないから何もできないというけれど、今の科学の力ではそれは可能だと思う。科学の進歩でスワンを浮かせたり、競艇をやってもいいと思う。飲み水だからダメと言わず、検討して欲しい。また23区の老人ホームを増やし、介護士の寮を作ること。奥多摩湖の山の方では、真冬に雪が積もらない地域があるが、その土地について一度地熱エネルギーの調査をして、自然エネルギーとして活用できないか検討も必要である。水素エネルギーの工場の設置等について費用問題もあるし、自然を壊してよいのかということもあるが検討しても良いのではないかな。

(回答) 町

湖面利用や自然エネルギーのことについては、担当課に持ち帰り話をしていきたいと思っています。

(意見) Aさん

約20年前に子ども会やPTA役員をやっていた。その時に、このままだと子ども会が消滅してしまうという話が出たが、その時は子どもが沢山いたので、「そんなことはあり得ない」と言われた。でも実際20年経って、全く子どもがいなくなってしまった。本当に10年後20年後の梅澤地区を考えると決して消滅しないとは言いきれないと思う。今、自治会長が先頭に立ち色々してくれています。一部の人だけが頑張るのではなく、皆で本気でやっていくということが大切だと思います。

以上

少子高齢化・定住化対策意見交換会（丹三郎自治会）

- 日 時 平成 30 年 6 月 20 日（水） 19：30～21：43
- 場 所 丹三郎生活館
- 住民出席者 22 名（男 12 人、女 10 人）
- 町出席者 4 名

●意見交換内容

（質問） A さん

1. 住宅を新築しているが今年から来年にかけての新築予定を教えてください。
2. まだ建ってないが、既に募集があるのか教えてください。
3. 入居条件は、厳しいですか。結婚だけでは駄目なのか。子供がいなくていけないのか等条件を教えてください。

（1.2 回答） 町

小丹波地内の文化会館下に 2 棟 4 戸と今までに氷川地区にありませんでしたが南氷川国道上部に 1 棟 3 戸集合住宅の合計 7 戸の整備計画で進めています。募集状況については、7 戸に対して、10 名の方が応募しています。

（3. 回答） 町

町の住宅には、公営住宅と町営住宅があります。公営住宅については、低所得の方で町営住宅は、所得の高い方となります。基準は月収 10 万以上（控除後）となります。さらに町営の中に若者住宅・高齢住宅・母子世帯住宅があります。収入基準・年齢基準・母子基準合致すれば入居は可能です。町営若者住宅の新築は倍率が高く、若者住宅については選考となると、年齢の若さや、自治会加入要件等の聞き取りを行い総合的に選考している。

（質問） B さん

資料 8 ページ目の 5 の形態別定住実績について、形態の I ターン【町外に居住しており、町内に転入してきたこと】の世帯数 62 とありますが 62 世帯数のうちの就業率、就職の状況はどうなっているか。プータロー（無職）の人がいないか。その辺の教育とか。町内の就職が中々難しいと聞いたがその辺をお聞きしたい。就業形態を知りたい。町の企業が少ないが何か対策は！？

（回答） 町

年齢別として、65 歳以下の若い方の世帯で就労してない方は、1 世帯です。それ以外の方はすべて就労している状況です。65 歳以上の方は、既に定年退職になっている方がおりますのでほとんどの方は就労されてない形になります。就労支援としては、65 歳以上の方については、シルバー人材センターをご紹介したりご案内する。65 歳以下の就労

されていないで家庭を持っている方は、当然就労支援をしていく形で公的な支援をしていく取り組みをしています。若者定住対策室で町の全体の総合窓口として相談を受けています。移住者の地域によりますが、青梅市や羽村市からの移住者は、転職しないので町内に就労する可能性がほぼありません。通えてしまうのでそのままです。迷われる方は都内の23区や23区に近い市の方となり、とりあえず通うのがほとんどです。遠方からの移住者の相談については、町内の企業、昭和石材や奥多摩工業や町内4特養やグランピングや日本語学校等あり、移住定住相談会に来た12企業や、町内の建設事業者の組合もご案内しています。町としては、福祉の仕事に就いていただきたい希望はあるが、仕事のイメージが大変であり中々雇用につながらないのが実際のところです。ハローワークとも連携しているが、離職して奥多摩へ来るのは少ない9割は仕事持ち、1割ぐらいが仕事探しをしている。奥多摩のイメージは山林事業となっているが、昔は生業として成り立っていたが、現在環境面等でみると就労はなかなか難しく、イメージとのギャップはあります。

(質問) Cさん

1. 若者住宅を各地域に造られているが地域によって交通の便が悪いところも見受けられるが各住宅の入居率を教えてください。

2. 古民家住宅について、入居世帯で子供が生まれて、その子供が10年20年先になって、高校や大学の通学や就職で遠くに若者が出て行ってしまい、年寄が残されて、また元の状況に戻ってしまうことが考えられるが、町は将来を見込んでこの事業をしているのか教えてください。

(回答) 町

1. 各地域の若者住宅については、海沢、川井、小丹波第1(熊野神社横)、棚沢坂下、古里桜久保(給食センター下)に造りました。今年は、小丹波南の原(文化会館下)と南氷川に造っています。入居率については、100%です。今年造っている住宅についても募集倍率も100%を超えこれから選考していく状況です。

2. ご質問の内容は、田舎暮らし支援住宅と若者定住応援住宅かと思いますが、この住宅は15年住めば無償で譲与します。また名義は町のままであり、抵当権の設定や売却を防ぐため、無償譲与契約を結んでおりますので、15年間は住んでいただけないかと思っております。また空き家が問題(美観・治安悪化・不審火等)となっており活用を考えないとなりません。奥多摩からの転出理由として町は急傾斜地であり宅地を造成するにも費用が増大します。梅郷地区に平地を購入した方がよっぽど安価です。土地価格についてもバブル時の1/4程度まで下落しています。このため金融機関もお金を貸してくれない状況であり、家も建てられません。空き家はそのまま残すと負の遺産となります。所有者も空き家の場合、税金面でも優遇措置が無くなりますし、今後の管理も困難になると思っております。子供は仕事のため町外へ出ていくことが多くあります。ただ地域で一緒に活動して、楽しいことがあれば地域に残ってもらえたり、奥多摩を第2の故郷と考えていただくことができます。ひいて

は永住につなげることを目的としています。子育て支援や、環境のいい町、その環境を整えている状況でありますので、丹三郎に新しい方がいらしたらご支援していただきたい。

(質問) Bさん

町の説明だと15年経って、子供が外に出て民間に勤めて都内に住むがUターンする環境づくりを進めていると考えてよいか？

(回答) 町

教育力の充実、子育て環境充実、高齢対策の充実を図ることにより、自分が高齢になっても住みたいと思っていただきたい。

(質問) Bさん

私の話になるが都内に2時間かけて通っていた。若い人も通勤可能だと思う。経験している人もJR利用も含め帰って来てほしい、Uターンの人が住みやすいように出来るか！？

(回答) 町

若者定住補助金制度あり。2世帯住宅、新築住宅で最大200万までの補助制度があります。また利子補給は最大90万(3か年)、フラット35と併用だと0.25%金利が安くなる協定を結んでおり、かなり戻りやすい環境を整備しました。

(質問) Dさん

現役子育て世代です。子供から意見を預かってきました。22才21才16才の子供(息子)がおります。上の2人は町外へ転出しました。22歳(長男)は結婚し2歳子供がおります。世田谷で、子供が無事、保育園に入園できましたので、町に戻ることは無くなりました。21歳の次男は奥多摩が好きとっておりますが、仕事がサービス業のためシフト制(時間が不規則)です。電車本数が少ないため、非常に非効率です。仕事があれば町に就職したいが希望の職種は無いとのこと。上二人は高卒で就職しているが高校生はハローワークを利用しないと就活ができない。町内業者では昭和石材と奥工の2社しかない。企業が高校生に募集していない。町内で就活ができない状態。募集があれば入りたい子はいるはず。次男は電車が45分に1本になった時点で引っ越しました。長男の場合、東村山に就職しましたが、早番時は始発では間に合わない、遅番時は終電に間に合わない状況でした。社会人であるにも関わらず青梅駅まで送迎していましたが、体力の限界を感じ、結果、小平に引っ越しました。不便なので戻らないとのこと。町は子供たちに戻ってというのが不便なので戻らないと言っている。三男の場合、部活動の朝練に間に合わない時は車で送る、練習試合については顧問に言って時間を遅せていただいた。修学旅行時も送った。時間があれば良いのだが無い。青梅～奥多摩間のバスが無いことが不便。電車不通時にも振替無いこともある。ガソリン券、タクシー券を出してもらっているがバスがあればこれも出す必

要もないのではないかと。私も20数年経過したが現状、子供は20年後、出て行ってしまいます。人口動態のグラフは伸びないと思います。

(回答) 町

私も3人の子育てをしていますので状況はよくわかります。JRの45分に1本の件についてはJRに町長や議長などが行き、切実に伝えました。定住対策にはJRは欠かせないので以前から要望をし続けています。西東京バスは補助金を出しているのが要望に耳を傾けていただけるが、JRの考えはJR東日本全体の資源の再配分ということで人口が多いところは手厚く、少ないところは廃止の方向となっております。町長をはじめ議長、近隣自治体等と連携し、電車がなくなる様に働きかけています。最近ゲリラ豪雨で不通となる場合が多くなりましたが、同時に道路も規制がかかりますので公共交通機関であるバスは運航できないことがあります。ガソリン券、タクシー券で対応している状況です。

(質問) Dさん

御岳発は、朝2本あるがなぜ奥多摩発に変更してくれないのか。また、電車を4両から少なく運行し本数を増やせないのか。

(回答) 町

これもJRに毎年要望しておりますが、JRは乗車人数を把握しているのでなかなか難しい。また4両ではなく車両を少なくし、本数を増便できないかと、以前お願いはしてたものの、切り離しや連結に人件費がかかるし、運転手の人件費は同様にかかるとの理由により難色を示しております。若者住宅は年齢制限があり20、30、40代で要件異なりますH32から退去者が出てきます。退去者はどこに住むかとなると、分譲地、若しくは空き家を活用することとなります。23区まで通う方は難しいが業種によっては不便ではない方もいるはずで。町の視察に町外(都外)議員の方がいらっしゃいますが、東京都以外の感覚では、「5,000人の人口規模で45分に1本は恵まれている方である。」とおっしゃいます。23区の感覚で比較してしますと、どうしても不便に映ります。

(質問) Dさん

今いる高校生・大学生の支援は？

(回答) 町

子育て支援の定義では18歳未満まで子供、障がい者は20歳までが子供となります。高校を卒業すれば、大学や就労など各家庭によって異なるので、画一的なサービスは難しいと考えています。

(質問) Eさん

施策について私たちが考えていない時から、町は推進していると思うが、私たちの問題なんだと認識した。雲の上の話ではないという感覚になってきた。これからは施策に一人

ひとりに何が出来るか！？私たちが提案していきたい。例えばお祭り時に親戚に連絡しきてもらう等（I ターンのきっかけ作り）町からも参考例等出していただきたい。みんな何かやりたい気持ちは湧いてきていると思う。土地を持っている人もいれば持っていない人もいるが、それぞれが持っているものを活用していくよう要望したい。

（回答）町

自治会皆様と一緒に考えたい。町の職員だけでは立ち行かない。普及啓発に努めている。役場に持ち帰り、さらなる普及啓発を続ける。

（意見）Eさん

この様な会だと暗い話になりがちだが、日本語学校のプログラミングの業務は電柱（電線）があればどこでもできる。アメリカのシリコンバレーは昔、ものすごい田舎であったが、今は世界経済を引っ張る規模にまで成長した。希望をもってみたい。（良い例として出していた。）

（質問）Fさん

Dさん同様、子育て中の母親です。3人の女の子を育てており、上の娘は小学校2年生です。古里小学校に入学し、21人の仲間がおり、娘の同級生には、若者住宅に入居されている方々もいらっしゃいます。そのおかげで友人も増え、楽しく過ごしているのがありがたいです。それはそれとして、子育てについてはDさんより小さい子供がいるため、様々な心配があります。私はUターンですが、子供の遊び場がありません。私が小さい時には、生活館の横で遊びましたが、今は遊具も撤去されてしまいました。子供には移動手段がありません。交通手段の無い丹三郎地域は学校に徒歩で通う一番遠い地域です。通学しているのはうちの子供たちだけです。停留所もありません。私の高校生活時の通学は朝早く、帰宅も夜遅かったです。バイク使用もダメであったため、親に送迎をお願いしていた。自力で移動できる町になってほしい。また近隣にはセブンしか店舗がなく、近いのは柚木のパーク。店舗が活発になれば、高齢者も便利になると思いますが、商店街が無い。遊具が無いというときこりんへと言う方がいますが小さい子供は一人で行けません。店舗に関しては若者住宅みたいに招致してみてもどうでしょうか。そういうところからイキイキとしていただきたい。文房具屋もないのでカインズホームに行けばとなる。自然豊かというが、本当に自然なのか？きこりんは建物内であるし、公園も無い、公園は平地でなくても良い（梅郷の梅の公園みたいな）と思います。ウォーキング場所もなく車でウォーキングに御岳まで行っていますがそれも変ですし、町内で完結できればと思います。バスがせめて御岳から小丹波まで接続してくれればと思っています。

（回答）町

遊具については数年前に、文部科学省より遊具点検実施及び老朽化した遊具は撤去の通達がありました。町で点検を行い、使用状況等を確認し撤去した経緯があります。スポー

ツ広場については当時、ゲートボールが流行っていたのと、未就学児の子ども少ない状況もあり、未就学時は保育園へ入園するのがスタンダードなため地域の需要が無い時期もありました。遊具については総合的に勘案し、教育委員会と検討したいと思います。町に公園はないが、町全域が国立公園内であり想像力を働かし自然公園で遊んでとアナウンスしていますが、都心の方々は整備された公園が欲しいとの認識です。お店の関係については空き店舗はあるが、例で挙げれば氷川のデイリーヤマザキ氷川が廃業したが経済的な理由ではなく働き手がいけないことが要因である。この前の移住相談会にも山崎の本部の方が参加した。実際、町内で買い物する人は減少しており、商売としてやっていけないので、お店がなくなる。このようなことから、地域で事業を行っていただける方のために、小規模事業者の優遇措置制度を整備しているバスの問題についてはおっしゃる通りですが都営バスなので採算が取れないと難しいと言われていています。運送事業も採算が合わなければ難しい。西東京バスについては、定期的に勉強会を行っていますので、今後検討していきたい。

(質問) Dさん

町でコミュニティバスは！？1回100円（国分寺市の例）

(回答) 町

コミュニティバスは、基本路線外を走っている。町は西東京バスが幹線にすべて入っているので、同じような場所にコミュニティバスを走らせるのは難しい状況です。コミュニティバスを運行するには、何千万単位でお金かかる、車両維持・人件費が高い等以前検討はしていた。西東京バスに5,000万円/年払っているが採算で言えば補助で持っている状況でもあります。コミュニティバスを町が走らせるより、路線変更のほうが現実的です。これらも所管へもちかえり、本日でた意見を伝えます。

(質問) Bさん

個人的には吉野街道でスーパーたいらやまでの間、信号が多く感じる。平日は時間帯により渋滞が発生し、休日にも渋滞する。都道は感應式信号に出来ないものか？

(回答) 町

貴重な意見として伺いました、検討したい。

(質問) Gさん

1 自治会員の皆様へお願いがあります。丹三郎の空き家は11件あります。空き家を活用してほしい。60歳以上50%超え、丹三郎は逼迫している状態を知ってほしい。

2 関連して来年度の住宅着工の計画は？

3 6月末よりJR氷川駅は券売機オンリーとなった、今後もっと条件が狭まるようになるのでは無いか危惧している。都バスは（柚木、梅郷地区）青梅線より多い、バスの便が良い。JRは奥多摩の人口が増えない限り考えないと思う。柚木に接続する方策を考えても

らいたい。いろいろな対策を打ってほしい。

(回答) 町

2 住宅着工計画については長期総合計画に基づき、計画年間（定住促進計画）は10戸目標としていますが、年間7戸程度（財政事情による）となっています。

3 交通機関については先程のご説明のとおり、持ち帰り検討したい。

(質問) Hさん

高齢化について町は高齢者が増えている。資料を読んでいると、女性と男性の見方が異なる。主婦目線で言えば、足腰が弱くなって買い物に行けない。どうしているかという隣人や友人に頼んでいる。自分で行きたいはずであり、私の感覚では高齢者は後回しになっている。バスについてはお金はかかるというが、主婦の楽しみ（買い物）は必要かと思う。孤立化も防止できるし、見守りもできる。このままでは買い物難民が増加する。まだ運転はできるが今後は不安である。大きいバスとは言わないので、バスは真剣に考えていただきたい。町は高齢者に力を入れてほしい。

(回答) 町

そのような時には、地域支えあいボランティア事業を活用してほしい、ボランティア事業については昨年実績 277 件利用されています。内訳は通院が多く青梅市への通院、美容院、お見舞い等々町としてもこの事業をもっと広げていきたい。福祉会館で協議会をおこなったが、これからは行政だけでは限界があり住民皆様がそれぞれ助け合っていただきたい。バス等はすぐに答えは出ないので検討させていただきます。

(情報提供) Eさん

情報提供ですけれど実際にボランティアで活動している方（●●氏）はいる。（送迎等）

(質問) Iさん

若い人、高齢者の意見はありますが、昔は御岳までしか電車は来ていなかった。奥工（石灰）があったから、奥多摩まで延伸されたが、今の利用状況では電車なんかとっくに無くなっていても不思議ではない。先ほど言っていたバスが走れば、電車は無くなってしまおうと思う。高齢者は自身の運転も難しくなるし、自転車も乗れる場所ではない、またカートもダンプが走行しており危険なため乗れない。タクシー呼んでも電話にも出してもらえない。こうなるとボランティアを増やすしかない。こういった状況なのでバスを出すのは賛成ですが、電車が無くなってしまおうと思う。病院の儲けのための薬の無駄等、まずそっちを変えていってほしい。（医療費抑制）

(回答) 町

公共交通の視点で全体的に検討したい。

(質問) Bさん

発想の転換で、町でバスを持てばいいのでは？検討してみてはどうか。

(回答) 町

町が直営で行うことは、費用対効果の問題で難しい結果となっています。ただ公共交通の問題ですので、引き続き関係機関と検討したい。

(質問) Gさん

ボランティアで移送することはいいんですか無銭で？また、それでお金をもらってやることも良いのではないですか。たしか丹波山村にあったと思いますので、それを発展させて行くのも良いのではないですか。

(回答) 町

町でも地域支えあいボランティア事業で行っている。また、ボランティアの有償サービスもあります。例えば買い物に行くなどです。それを今、普及啓発していくことを行っています。

(意見) Iさん

一般のボランティアがやると事故の時等に問題がある。

(意見) Eさん

町でバスに 5,000 万/年払っているがほとんど空気を運んでいる。運送会社が人手不足で問題となっているので、バスで物を運べないか。また、昔は JR で客席の端に物(新聞等)を乗せて運んでいた。町の人に直接言うのも変だが、なんか工夫をして経営が少しでもプラスになればよいと思う。

(回答) 町

関連の検討はします。

(質問) Jさん

若者定住について、奥多摩に暮らしたい人登録バンクに登録している方で古民家とか賃貸の空家を希望される方が多いと言うことで、この数は潜在的にはどちらも多いと思うのですが奥多摩らしさを求める人は、こちらをチョイスする方が多いと思いますが、この辺があまり提供できていないとのことで町に数多くある空家が応募している人に対して間に合っていないのか、それとも空家の整備とかそういった手続き的なものが整っていないのか、あるいはほかの対策があるのかその辺を教えてください。

(回答) 町

空家の状況ですが奥多摩町全町で約 480 件程度の空家があります。その空き家を活用するために空家を寄付していただいた場合は、200 万円の補助、若者用空家バンクに登録して

いただける方に 50 万円、空家バンクに登録していただける方に 10 万円を補助する制度を始めています。これは、問題があり活用が困難な空家を活用するため、ゴミを片付ける費用と一番の問題が相続となりますので、その相続の費用を助成するものです。相続しなければ、第三者に売るもしくは貸す、町に寄付する場合、登記を変更しなければいけません。移転登記をできる状況でなければ活用できません。奥多摩町で一番相談が多いのは相続ができない。例えば私の場合は、父親が亡くなった場合、兄弟 3 人と母親を含め法定相続人は 4 人になりますので遺産分割協議書を作成する場合 4 人の印鑑をもらえば良いですが、登記簿上の名義がひい爺さんの場合は、その子供や孫、ひ孫で 50 人位の方から印鑑をもらわないと遺産分割協議書を作成できないので、相続ができない場合がある。このように印鑑をもらう方が多数となると非常に時間がかかり、また不明な方がいる場合は、不在の証明が必要となり家庭裁判所に申し立てをして事件簿として扱われ更に時間がかかる。奥多摩町は地価が安価なので相続をしないでそのままのケースが大分増えています。町では補助金を交付することによって、お子さんやお孫さんに迷惑が掛かるのを解消するような取り組みを行っています。このようなことで空家を活用できる絶対数が少なく、昨年度実績で 6 件です。最近では補助金もいらないので町で寄付受けてもらいたいと相談もありますがこのような物件は中々活用できない物件で活用できない物件は寄付でも受けないため、更地にしてから寄付を受け土地だけの活用となります。

(質問) Jさん

物件が少ないと潜在的に奥多摩に來たい人が諦める状況かと思うが奥多摩らしさがある町営住宅を造るとかそういったアイデアはあるのか。

(回答) 町

相談は多くあり、助言しているのは、今は仮住まい（集合住宅）とし、地域に溶け込むにはしがらみ等あるので、ために住んでみてはと紹介している。例えば自然環境が良いということは、虫や動物もいます、虫などが嫌いの人は住めない等年間通さないと良し悪しがわかりません。その後永住といった段階を担当レベルでは勧めています。今年度から税の優遇措置や危険空き家の取り扱い等を整えましたので今後、空家の活用が図れると思います。また各自治会に定住サポーターを配置しており現在活動している。

(回答) 町

定住サポーターが所有者にアンケートを取っているが、墓参り時に使用する、実家なので思い入れもあり手放せない等個々の意向があり、なかなか難しい状況です。

(回答) 町

ぜひ活用いただきたい。

以上

少子高齢化・定住化対策意見交換会（小丹波自治会）

- 日 時 平成 30 年 6 月 19 日（月） 19：30～21：00
- 場 所 小丹波コミュニティセンター
- 住民出席者 23 名（男 11 人、女 12 人）
- 町出席者 4 名

●意見交換会内容

（質問） Aさん

若い人にとって一番大事な仕事先について、町は民間企業誘致や雇用における協力など行っているのか。空家を無償で提供し職場を確保、職と住をセットにすることで、若い人に良いイメージとして迎えられている子育て支援策がさらに魅力的になるのではないかと。

（回答） 町

地元企業の人事担当、職員採用担当と連携し雇用先の紹介をしている。地元の企業が元気でなければ地域が元気にならないため、地元企業を優先に斡旋をしている。こういう時代であるため、小規模事業所からの相談もあり小規模事業所の優遇措置を要綱で定め、その方から相談があれば雇用場所の提供、若干の助成金提供の支援をしている。企業誘致の観点であれば、日本語学校の空き教室を利用した雇用促進や町に寄付していただいた土地を活用したグランピング事業等、町の第三セクターの各種事業を推進しながら雇用環境整備をしている。

（補足） 町

介護保険の話をしたが、町内 4 つの老人ホームでは介護の担い手不足が深刻、町だけでなく全国的な問題。外国人労働者の介護士を雇うこともあるが、実際には人材養成までに時間がかかる。できればそういう職種に就いてもらいたい。4 月の移住定住説明会でも 4 つの老人ホームの担当者が説明したが、イメージとしてきつい、給料が安く敬遠されがち。将来的な介護人材不足は明らかで、そういう面でも一緒になって就労相談に乗りたい。給料については介護報酬として国全体で定められており、町が支援する訳にはいかない。

（要望） Bさん

先週木曜日に小丹波地区の地区懇談会を開催。今日は子ども会代表として、また子供代表一人を連れて参加。地区懇談会では学校外の遊び、放課後の遊び、子供達の見守りについて議題があり、時間が足りないほど親御さんたちから意見が出たので町にぜひ要望したい。地区懇談会で困りごととして、意見が 3 つあった。1 つ目、子供達の遊び場がないため、どこかに公園を整備してほしい。こども議会で小学生が公園を整備してほしいと要望を出したところ、町長から「登計原に行ってください」と言われたが、放課後登計原に行

くことはできない。実際に遊ぶ場所がなく他地区から来た人は騙されたという人もいる。実際の子供達の遊び方として、放課後4時半までは校庭で遊んでよいということだが、電車の時間やバスの時間もあり、各地区に帰るとそれから遊びに行くことができない。今回の小丹波地区懇談会の意見として、きこりに行き小学生が遊んでいると「うるさい」「小さい子が来たときに危ない」と怒られる。校庭も遊べない、駐車場もだめ、道路もだめ、空き地もだめ、遊ぶ公園はない。きこりんか、それぞれの家や友達の家でゲームをするしかなく何とか遊ぶ場所を確保してほしい。実際スポーツ広場はつまらない、友達が来ても帰ってしまうという現状がある。2つ目、放課後校庭開放をしてもらいたい。学校側は4時半までなら遊んでよいとしているが、それ以上の時間は学校の管理は難しく、他でもこの時間まで遊んでよいとしている地区はあまりないという。子供からすればもっと遊びたい。学校の管理下ではなく、子ども家庭支援センターやシルバー人材センターで子供を見守る人を配置してもらいたい。町田市など他地区の取り組みを参考にしてもらい、放課後校庭で遊べるという仕組みができないか。その仕組みは地域で考えるのか、役場で考えるのかかわからないが、話し合ってもよいのではないか。3つ目、古里小学校のプールを温水化にして一年中使えるようにしてもらいたい。陽があたらず水温が低く寒い。子供も東青梅のセントラルまで通わずに済む。小さい子からお年寄りまでよく聞く話として、老人がプールを利用することで、健康になり医療費が浮くのではないかという意見があった。

(回答) 町

子ども家庭支援センターの役割は未就学児支援が第一。きこりんの場合は町に児童館がなく小学生も遊べるようにキッズプレイルームを設置した。本来は未就学児支援が役割だが、利用時のルールを守ってやりましょうということ。未就学児のお子さんは昼寝をすることもあり、小学生が横で騒いでいるとゆっくり利用することが難しいのではないか。そのようなことがあり、あまり騒がないということルールとしたのではないか。玩具の問題は、以前はどれでも使って遊んでよいとしていたが、玩具を出したままでは躰にならない。それぞれ使いたい玩具を申請し、一つ一つ片付けることを覚えてほしいという考えのもとである。校庭の管理は学校と教育委員会だが、校庭開放の場合は代表の方が申請、借りた方の責任になる。例えば子供会が申請し校庭を借りることはどうか。

(意見) Cさん

その時間に親は子供を見られないのが現状、子供会でまた親がとなったらまず無理だと思う。町田市ではシルバー人材センターを使い工夫した構築ができています。奥多摩独自でよいので親が仕事をしやすい、子供が遊びやすい場所を作り上げていけたらと思う。

(回答) 町

例えば今、色々なご提案があるがそういったご提案をまとめていただき、どのような形がよいのか、教育委員会としても町田市に素晴らしい仕組みがあるなら、具体的な情報提供をいただきたい。町でもやっていない先進的な取り組みを職員も勉強させていただき検

討することができるので、PTA 会長から教育委員会に生活改善要望書を提出していただきたい。

(回答) 町

温水プールについて以前議会でも同じ質問があった。羽村市、あきる野市ではやっているが非常にコストがかかる。議会でのお答えではコストのかかることは難しいと町長からお答えをさせていただいた。夏休み期間中監視員を雇いプール開放しているが、利用者は多くない。プロパンガスを使い水温を上げる工事をやっているが、行政は費用対効果も考えなければならず現状では難しい。

(意見) Bさん

子供の時に沢山遊び充実した子供時代を過ぎないと町に愛着がなかなか持てないのではないか。町から出て行ってしまふ、帰ってこないことにつながる。要望としてよろしくお願いします。

(意見) Dさん・Cさん

老人ホームからバスをチャーターし温水プールを利用して運動するという形など工夫はいくらでもできる。そういう例を作り新たな取り組みとして外部に発信することもできるのではないか。介護が難しいなら要支援の人を要介護にしないため、高齢者の足腰を鍛えるためにもプールはよいと思う。

(回答) 町

老人ホームの平均的な要介護度は4、多くが自力歩行は難しく介護施設の手厚い見守りがあれば可能だが、老人ホームの利用については現実的ではない。

(回答) 町

62億9千万の予算の範囲内で新たに財源を確保するのは難しい。住民皆さんの声が大多数を占めるのであれば当然に予算の組み替え、子育て支援、高齢者、障害者の予算を削るなどが必要になる。そのために行政改革をもっとやるのか、新たな財源確保をする方法はあるが、住民皆さんの優先順位を反映しながら町の政策としてやっていきたい。先ほどの公園のお話、遊び場の話にもあったが、当初子ども家庭支援センターをつくる時に未就学児の皆さんのご意見や保育園のご意見、どういうものにしたらよいのか、将来的な人口推計を基にしたとき、ほとんどが町には待機児童がなく、未就学児は保育園に入る形ができてきた。氷川では神社会、古里地区でグーチョキパーという未就学児のサークルがあり、ほぼ100パーセントに近いくらい保育園に入園するようになり、外にあった広場を施設型の子ども家庭支援センターにしていこうとなった。広場には野外で遊ぶ施設があったが、当時の住民皆さんの意見を聞き現在に至っている。中山地区でも古里に手厚く、中山にないという意見もあり、住民皆さんから温水プールが必要だという大多数のご意見があれば、それに沿い予算の組み替えや配分をするのが役場の行政職員の役割。この場では回答できないこともあるが、いろんな意見をありがたく頂戴したい。

(意見) Dさん・Bさん・Cさん

きこりん2階の玩具スペースにある玩具を一つ出したら、一つしまうというルールだが子供はそれではつまらないので、鍵を開けたままではいけないのか。未就学児が鍵かかっている中のものを想像して、これが欲しい、あれが欲しいというリクエストは難しい。支援員がもう一人いれば、小学生に対する対応もでき、玩具のことも声をかけていただくことができ一番よい方法ではないか。

(回答) 町

未就学児の場合は保護者同伴をお願いしている。支援員は土日だけだが、ルールがあつて、ルールが守れず今の形になった。昔は子供の自主性、自由性に任せていたが、玩具として使わず投げつけ、喧嘩に使い怪我をさせる事故につながり今のルール作りになった。初めは誰でも自由に使える形だったが、つい遊びに夢中になると、物を投げたり、窓を叩くなど、他の子の迷惑になることがあり、未然に防ぐためであったり、躰の場として注意をしている。

(説明) 町

子ども家庭支援センターは未就学児施設としてスタートした。玩具はフリーで扉を開け、玩具を自由に使ってもらっていた。最近もあつたが、小学生がボール遊びでドアにドンドンとボールをぶつけ、未就学児が泣いて帰ったということがあつた。未就学児が来ているときは、小学生にはボール遊びではなく他の遊びをするようお願いをしている。未就学児のお子さんや保護者には小学生が20分くらいボール遊びを我慢していたので、させてもらってもよいかと話をすることもある。玩具の管理については片づけをするルールがあるが、それがなかなかできない。バトミントンのラケットが折れており、知らずに使ってしまったお子さんが怪我をしそうになったこともある。一回一回返してもらったときに点検をする。「貸してください」「ありがとうございました」というやり取りのもと貸し出しをしている。基本的に安全重視で一つ一つの貸し出し制、順番もあるため30分単位で貸し出しとしている。

(意見) Eさん

一つ出して一つ片付ける、それをしなくてもルールは守れますよということを言っている。公園もないのだから、学校でルールを決め親も責める訳ではない。親の責任で最後までやると思う。校庭開放のこともルールを守り、ルールを決めて、校庭開放を考えるのもどうでしょうか。

(意見) Cさん

子供はルールを守っていこうという姿勢を少なくとも持っている。きこりんの使い方みたいなことを学校の方も対応していけば、鍵をしめるスタンスではなく教育していくというスタンスに変わっていく。玩具が壊れても一つの教育になる。こういうルールを守らな

いからこのようになったというように生きた道徳として使えるような気がする。そういう意味では鍵を開ける方向で取り組んでいただきたい。

温水プールの件ですが、確かに町の予算は限られている。都に申請をして、町ではこれだけの老人が苦しい思いをしている、どんどん増えている現状がある。寝たきり老人にせず、老人たちにも動ける場を提供し老人が自立していく方向で、町は取り組む姿勢を都に見せることで予算を確保する努力をしてもよい気がする。先ほど、Aさんからもあったが、企業誘致をして若者の職場を斡旋している話だが、子育ての観点から言えば10年後20年後にその人達が夢を持てるような働く場が奥多摩にあれば衰退していく奥多摩ではなく、発展していく奥多摩になっていく気がする。奥多摩に魅力を感じ子育てしやすい、働く場がある、老人ホームの介護者が足りない話、介護者養成学校を誘致して、そこで育った子供が実際に介護をして生活をしていく、そのためには報酬が安いという話があったが、町は違った形の援助をすることで夢の持てる地域を作っていける気がする。地域づくりフォーラムや意見交換、スポーツフェスティバルなど色々あるが、もう少し包括的な取り組みとして位置づけができないのか。地域づくりフォーラムでは山形県の取り組みとして、子供と老人と一緒に給食をとりながら、知り合いを広めていく話を聞いた。地域が若い子供達と一緒に活動していく取り組みを作れば、子供がお年寄りと一緒に何かを作っていくということができるのではないかと。そういう取り組みもやっぱり町で考えていき、我々も考えていかなければと思う。

(回答) 町

異世代交流について、二つの保育園でウェルカムランチを行っている。昨年度は60名程度参加。広報による周知もしている。高齢者の皆さんにお知らせいただきたい。

(質問) Eさん

若者住宅入居者で戸建て住宅に住もうと思っている人はどの位いるのか。

(回答) 町

昨年度29年度に町営若者住宅にお住まいの方に意向調査をしたところ、戸建て住宅が望ましいという意見が半数程度あった。これからは古里地区の他何ヶ所か分譲地を整備していく計画。移住者は生活の暮らしやすさを求めやってくるが、暮らしが悪いと出ていってしまうこともある。若者定住化対策室では移住、定住すべての相談を受け付けている。相談があれば若者定住化対策室をご案内してほしい。最後に、奥多摩に移住したいと相談に来る方は自然環境がよい、子育て支援がよいと移住するが、地域に入るのは不安と勇気が必要。移住者も受け入れる側も不安がある。お互い支え合いながら移住者・Uターン者に対して住民の皆様方に協力をいただきたい。移住者にしてみれば全然知らない地域に入り、子供会の行事や地域の行事に参加しなければならない。皆さんの温かいご支援で定住から永住に進められるようサポートしてもらい、先ほどの話にもあった夢のある地域として奥多摩町が第二の故郷となり、子育てをしてくれるのではないかと考えている。若者定住化

対策室はいつでもお話を受ける機会を設けているので、不安なことなど何かあればぜひお電話いただきたい。

(意見) Cさん

先ほどあったように、若者達が入りやすい地域にするには我々も努力していかなければならないと思います。ただやっぱり奥多摩に来てがっかりされるのは我々も辛い。せっかく自然が沢山ある奥多摩に来て、遊ばせることができないと、小丹波の地区から意見が出たので、我々も努力しますので町でも努力してもらいたいと切に願います。

以上

少子高齢化・定住化対策意見交換会（棚澤自治会）

- 日 時 平成 30 年 6 月 28 日（木）19：30～21：00
- 場 所 棚澤コミュニティセンター
- 住民出席者 20 名（男 17 人、女 3 人）
- 町出席者 4 名

●意見交換会内容

（質問） A さん

高齢化（対策）をやっているけど、とりあえず奥多摩町には企業がこないとしょうがないじゃないのか。じゃないと、若者だって来ないでしょ。企業が大切だと思う。そういう場所を作るとかしないと、どんどん高齢化が進んでいってしまう。

（回答） 町

企業の充実は非常に重要だと思っております。まずは、町内の 1 2 事業者、福祉施設や地場産業の鉱工業の企業、総合開発、グランピング事業者などの声は若い働く方がいないとあります。第一義的には地元企業の元気が出るように支援を行っております。その中で新しい企業の誘致ということで、町が昭和 3 0 年に合併して以来、大規模企業の誘致を行ってきましたが、環境の面や自然公園法などの規制があり、大規模企業が来てくれない状況です。町では小規模な事業者に来ていただくための施策も始めております。また、通える範囲でということで、立川くらいまで行くと数多くの企業や職種があるので、そのように普及、啓発しております。ただ、企業が来なければ、若者を来ないというご意見は、多くの企業が来れば選択肢も増えるのでその通りだと思います。

（質問） B さん

3 月か 4 月の町議会で提案されたかと思うんですけど、人工透析の問題に絡む内容がありました。私は、その提案される前の署名活動で参加させていただいて、相当数の署名をいただいた。町の中でも 3 3 人の人工透析患者がおり、一番大変なのは雪が降ったりなどで、青梅の施設まで行けないという状況があり、中には脳梗塞で歩けないという方もおり、大変な苦勞をしているという話があります。奥多摩町でも（人工透析患者用の）施設が可能かどうか。町としては予算的な問題があるという回答でした。フローの部分で患者さんを車で送迎するという事は聞いております。今後ともこの問題については、高齢化が進む中で、新たな問題として多く出てくるのではないかと思います。例えば大雪や台風などの災害時に人工透析に限らず、重要な薬を飲まなくちゃいけないという方も多いと思いますが、そういった場合の機動力、町役場の力に頼らないといけない部分があるかと思いますが、予算化はいかななものでしょうか。

(回答) 町

議会の方で一般質問でもありましたが、結論としてはなかなか難しいということです。理由しましては、費用がかかること、透析をするためには800万円から1,000万円の機械を導入しなければならないこと。また、医師や検査技師、看護師、患者さんを送迎するバスが必要と色んな部分で投資がかかるというところ。さらに、まわしていく人数について、青梅市のクリニックに問合せみたのですが、1日30人から35人くらい患者さんがいればペイできるということです。町内の33人の患者さんは毎日行っているわけではありません。多い方で2日に1回という回数ですので、現状より2倍の患者数にならないと、ペイできません。また、どこに通うかは患者さんが決めますので、例えば奥多摩病院に併設したとしても通うかはわからず、どこに通うのか選ぶのは患者さんの権利でもありますので、なかなか難しいということです。平成26年2月の大雪時には西多摩の8市町村の中で、唯一奥多摩町の職員だけが人工透析患者さんを延べ13名送迎しました。その経験を踏まえて、大雪などの災害が予想される場合にはクリニックに確認してもらうことや、近くの親戚に頼ってもらう、あるいはホテルに泊まってもらうなど、自助努力をお願いしております。また、町の方でも災害が予想される場合には患者さんご本人と通っているクリニックに連絡をとっております。そういったことも含めて、町で障害などをお持ちの方でも町の中の住み慣れたところで暮らしていけるように町の方でも支援しております。施設的なものは一回建ててしまうと、維持をするのに非常にお金がかかってしまいますので、現在では難しいということが町長のお答えです。

(質問) Aさん

現在、住んでいて家を壊し建て直すというかたちで住んでくれる人がいます。そういう人への補助金はあるんですか。

(回答) 町

家を壊して、建て直すという補助については、若者定住応援補助金という制度があります。最大で200万円助成しております。ただ、これには条件がございまして、50歳以下でお子さんがいる家庭か、45歳以下の夫婦、もしくは35歳以下の者というような条件です。

家族で住んでいる場合、お子さんが、結婚を機に2世帯にするために建替えるとか、子どもが増えて子どもの為に増改築とかなどでしたら可能です。各家庭の状況によって異なりますので、検討される方がいらっしゃれば、その都度、若者定住化対策室がご相談にのります。

あと、利子補給もありますので、是非ご相談に来ていただければと思います。

(質問) Cさん

実際10年間やってみて、●●さんとか新しく来られた方、多くの方がいらっしゃると

と思いますが、そういった方へのアフターフォローなどは町では行っているのでしょうか。例えば地元の者も新しく来た坂下の人（町営若者住宅（棚沢坂下）入居された方）も会って話すこともないです。おそらく、その人たちも奥多摩町にずっといようと考えているのでしょうか、いろんな問題を抱えた中で役場の方に相談するような場はあるのですか。

（回答） 町

まず、やり方として定住する前にご相談します。入る前に来る方の不安や、住む前に相談します。その中で、もしお困りのこと、子どもの環境で聞きたいことがあれば、若者定住化対策室が総合窓口になりますので、相談にのってくださいとご案内します。なお、子どもの関係は子ども家庭支援センターに相談してくださいとご案内します。入ってきた方については、役場職員にはフォローはないですが、町営若者住宅の入居者やいなか暮らし支援住宅などに入居された方に対してはアンケート調査も行っております。これは、定住の意向で賃貸住宅ですと将来的にどうするのかということもありますので、昨年度もアンケートをとり、どういったかたちで暮らしたいか、お困りのことはないですか、など話をしております。そのあとに必ず若者定住化対策室か子ども家庭支援センターにご連絡してくださいとアナウンスしております。また、新しくつくる住宅については所在地の自治会長さんに連絡して、新しく入ってくる世帯の情報を提供し、役場だけのフォローではなく、地域からのフォロー、入ってきた方が暮らす中で地域とうまくいかないと転出してしまうので、各地域にお願いして、お任せしております。例えば、梅澤で最初に入ってきた方には自治会が梅女会をつくり、小丹波の場合、お祭りの中で、役場の施策以外にでも新たに入ってきた方は紹介するなど。昨日、大丹波自治会の意見交換会に行ったときにも昨年度初めて町営若者住宅ができ、PTA とか子供会がお声かけして段階的にやっていくという話になりました。これは各地域で是非お願いしたいと思います。それと、町の方でも専門的な相談もしておりますので、もし自治会長へ相談がありましたら町の方へご案内していただければと思います。よろしく申し上げます。

（質問） Cさん

基本的には自治会の方でも、もっと積極的にその人たちに声をかけたりだとかした方がいいのかと思います。確かに入ってきた人たちは不安なことが多いと思います。前から住んでいる人たちは良いけど、入ってきた人たちを大事にしてあげないと、出て行っちゃいますね。

（回答） 町

やっぱり、住みづらくなると出ていってしまうと思いますので、地域に住んで、移住から永住に向けて、この地域だったら第2の故郷という、住み続けたいなという地域づくりを自治会と役場で一緒にやらさせていただければと思いますので、お願いします。

(質問) Cさん

棚澤はこれから（町営若者住宅）を建てる予定はないんですか。

(回答) 町

定住対策については第5期長期総合計画に基づき進めております。平成27年度から5か年の基本計画と定住促進計画があり、その中で、町営若者住宅と分譲地、いなか暮らし支援住宅などの事業を行っております。町営若者住宅は5か年の計画の中では坂下に1棟建設しておりますので、前期5か年の間には他に予定はありません。ただ、若者定住応援住宅やいなか暮らし支援住宅は空家を活用しており、その都度、寄付等された段階で募集しております。今回、棚沢の空家を活用し1軒募集しております。また、分譲地についてはすでに4月15日（移住・定住相談会）でご紹介しており、住安戸に1区画整備します。また、空家対策の部分は随時行っていきます。

(補足回答) 町

先ほどの子ども家庭支援センターという話で、若者定住対策ということですので、大抵お子さんがいらっしゃる世帯です。お子さんの関係では、町の母子担当の保健師が必ず訪問して、予防接種の状況やこれまでの生活や生育歴など聞き取ります。その中でお困りのことがあれば、担当へ繋がります。大きいお子さんがいる場合は難しいですが、未就学児や小学校低学年のお子さんなどは予防接種の対象になりますので、対応しております。あと、相談ごとがあれば子供家庭支援センターの相談員もこの会場にありますが、親身になって対応しております。

あと、民生委員さんもこの会場にありますが、棚沢地区は2人の女性がおりますので是非相談していただければと思います。民生委員さんは行政と地域のつなぎ役ですので、よろしく願いいたします。

(質問) Cさん

この間、小Pの地区懇談会を棚沢白丸一緒に行いました。こどもたちが学校を終わった後にどう過ごしているかということをお聞きしたら、大体ゲームが多いということだけど、結構、きこりんによって来るみたいで、親も共働きでないから、きこりんはすごいなと思って聞いたのですが、子どもは安心して遊べるので、こういう施設は夜までやっているのですか。

(回答) 町

平日は警備員さんがいるので、夜7時までです。土日祝日も開放しており、1階に警備員さん、2階に見守り員さんがおります。安心して遊べる環境を提供しております。

(質問) Cさん

高齢者として、うちは子どもがいないし孫もいないし、実際は先のことも考えられないのですが、20年後、30年後のことは頭はないんですが、高齢者として、どうやってい

ったら、いいんでしょうか。

(回答) 町

一つは、医療費の話もしましたが、健康寿命を伸ばすということは全国的な話でもあります。平均寿命と健康寿命との間の差が長いと、介護施設に入ったり、在宅介護を受けているということが考えられ、なるべくその差を縮めるということで、体操などを地域でやっていただければありがたいと思います。それに対して町では保健師の派遣もできますので、ご相談いただければと思います。

(質問) Cさん

健康でいるということが世のためになるということですね。

(回答) 町

そうです。シルバー人材センターでは理事をやっているのですが、会員は約170名おりますが、実際に総会に出席される方は50名くらいで、名前だけの会員さんもおり、是非60歳前から入れますので、よろしく願いいたします。

(質問) Bさん

私の小さい頃、海澤でゴミ処理場をつくる話があり、その話を進めていたのが私の恩師でしたが、その方は亡くなってもういないのですが、それが日の出町へ移って、今日の出町は町としてすごく裕福と聞きます。なぜ奥多摩から移ったのかというと、国立公園法でそういったことができないと思っております。それに見合うような町が裕福になるような、具体的には言えないのですが、先ほどのAさんの話もありましたが、企業の誘致ではないのですが、何かないもののでしょうか。最近よくテレビで奥多摩のわさびとかカエルとか峰谷の熊のことなどよく見かけるようになったと感じます。そういった奥多摩の特色を生かした人寄せができるようなものができないのでしょうか。例えば道の駅とかざつくばらんに思うところはあるのですが。

(回答) 町

以前に第4期長期総合計画が平成17年から始まり、その中で魅力あるまちをつくろうということで、インフラ環境の整備により町に人口を増やそうということでした。具体的には下水道の完備、上水道の一元化、ゴミ処理施設については、経費節減ということを考え、一部事務組合へ移行しました。このようにインフラを整備し、町の魅力を高め、住んでもらい転出抑制ということで進めてきました。第5期長期総合計画からはさらに行政が1歩進んで住みよい町づくりを進めていこうと、ハード部分からシフトして、子育て環境、高齢者の方が住みよいまちづくりを進めていくことによって地域で暮らしやすさを求める、それにより転出抑制をして町内に留まってもらう。町内に来ってもらうということで人口を増やす。平成27年度からは先ほどのグラフ（意見交換会資料）で見る通り死亡者数による人口減少です。今までは奥多摩に魅力がない、働く場所がないということで、転出して

いたのです。それはここにきて転入が増え、老人ホームが4施設あるので、転入が多いという見方もあるのですが、その部分を除いても若い方の転入が多いという状況になっております。外から見ると奥多摩町も多少魅力のある地域ということで自然環境が豊か、子育て環境が良い、住みやすいなど昔に比べれば、思われてきていて人が若干増えてきているという数字が出ております。ここでもう少しソフトな部分を充実することによって、先ほどの資料（意見交換会資料）のとおり、町で暮らしたい人は潜在的に結構いらっしゃると思います。テレビなどでのPR効果もあります。住みたいと思う方が住むということが重要なのではないかと思います。住みたくない方はどんなことをしても出て行ってしまうので、住みたい方が住めるまちづくりがポイントなのかなと思います。

(質問) Dさん

年寄と子どもと一緒に遊べるというか、年寄は子どもと一緒にいるとパワーをもらえる。そういうような場所が奥多摩町で予算的には厳しいかと思うのですが、そういうところをつくれないでしょうか。または予定はありますか。

(回答) 町

先進的なところでは富山県にあり、子どもから高齢者あるいは障害のある方も含めて、デイサービスのようなかたちで1日過ごす場所があり、そこを視察するところは多くあります。その部分的なもので、古里保育園、氷川保育園の給食を一緒に食べようというウェルカムランチ事業というものがあります。50歳以上とありますが、年齢問わず、月1、2回行ってありますが、お年寄りの方も近くにお子さんがいらっしゃらなければ、そういうところに行っていただき、孫の世代の子どもたちと一緒にご飯を食べて触れ合うという事業がありますが、なかなか知られていないので、お仕事されている方は難しいですが、平日の昼間ですので、参加していただければと思います。Dさんからの提案はすごくいいと思いますので、できるかどうかを含めた検討をさせていただきたいと思います。

(質問) Eさん

町でこれから10年、20年先の何かビジョンというものは考えているのですか。

(回答) 町

町のビジョンはあります。町は10年ごとに長期総合計画というものをつくっております。今のビジョンは平成27年から10年間のビジョンがあります。この他、地方創生関連で元気づくり計画というものもあります。これは奥多摩町の将来の20年、30年、40年先の構想をまとめたものになっております。この中では今の人口減少、町の現状を捉えて、何年後に何人にしていこうと具体的な指標を出しております。その中で奥多摩町に限っては、現在約5,200人の人口がおり、この計画をつくった10年後にはかなり人口が減少してしまうことが予想されるため、人口を4,300人という目標があります。その内訳としては、年少人口300人、生産年齢人口が2,000人、老年人口が2,0

00人です。その目標人口を達成するために各種事業を行っていかうと、10年ごとのスパンで計画があります。

(質問) Eさん

具体的な事業の内容を教えてください。

(回答) 町

役場の各セクションがありまして、それぞれの担当部局で、例えば観光産業課であれば、農地の問題、産業の問題、内水面漁業、農業（わさび）などの個々の対策、または商工業の振興ですとか、企業の支援ですとか個々の計画があります。

(質問) Eさん

今は縦割りですよ。そうじゃなくて、今までも危機感を感じていろんなことをやってきたでしょ。もっと今よりも違う180度変えて、例えば10年、20年の間に計算通りの数値は出ないと思いますよ。ですから、例えば、10年、20年後は今車に乗っている高齢者が乗れなくなる。それから若者が住宅を建てて、その子どもがまた出て行ってしまふ。小菅で建てた移住者用の住宅は良い循環をしていない。ですから町と民間が本当に真剣に事業を起こさない限りは自然減少でなくなっちゃうんじゃないかと思うんですよ。

(回答) 町

今はそれをなくすために人口減少対策を行っています。

(質問) Eさん

それはわかるんですけど、今、具体的にここからこういう目標でいかないと、あつという間に10年経ったときに、若者がいなくなったときはおしまいですよ。

(回答) 町

そのために、先ほどご説明した定住化対策事業が必要ではないかということで、進めております。

(質問) Eさん

それだけじゃなくて、他にもいろんなことを考えないと、高齢者が動けなくなったらというのことを考えなくちゃいけないでしょ。あえて言えば高齢者をどこかにまとめなきゃいけないでしょ。広がっちゃうと動けなくなるでしょ。

(回答) 町

今月、17日の日曜日に福社会館で住民主催の地域づくりフォーラムがあり、目的は、これからは行政に頼るだけではなく、住民皆さんが考えてお互いを助けあわないと成り立たないということ。それを気づいてもらうためのフォーラムでした。7月8日にもありますが、そこで体験をしてもらいます。例えば庭の草取り、病院の送迎などいろんな助けら

れること、自分でできること、できないことを選んで、これをしていただける方はいませんかということと呼びかけて、私がそれをやりますと、お互い助け、助けられる、助け合い。そういったものを今後つくっていかないと、Eさんがおっしゃられた通り地域がすたれてしまう。一箇所にとどめればいいというお話もあったのですが、誰も住み慣れた地域で暮らしたいと希望を持っております。年をとって介護が必要になった時に施設に入るということは止む負えないこと。昔みたいにお嫁さんが介護をやったり、ご主人が仕事を辞めて介護をするという時代ではありません。元気なうちは地域でできるだけ暮らし続けていただきたい。それを住民皆さんがお互いを支えあえるということをつくっていきたいと考えております。それをかたちづくっていただくためのフォーラムを、2回、3回と続けていきたいと考えております。その中でどういうことができるのか、私どもも考えておりますが、それは机上の論理でその通りいくものは多くはないと思っております。ですから、それを皆さんと一緒に考えていければと思います。

(質問) Eさん

それから、奥多摩町だけではなくて、隣の青梅市だとか、丹波山村などとの関係はどうなっているのですか。

(回答) 町

西多摩広域行政圏というものがあまして、西多摩地域の中で連携をしてやっております。例えば病院ですと、奥多摩病院と青梅総合病院というのは病院同士の連携をして、相互に患者の受け入れを行っております。奥多摩町に総合病院をつくるのはなかなか難しいので、広域的な観点から病院同士の連携をして、総合的に受け入れなどの連携体制をとっております。あと、図書館の連携、社会教育学習などの連携なども西多摩の中では行っております。

(質問) Cさん

檜原村で第3セクターがやっているコンビニですが、古里地区はセブンイレブンがあり、氷川地区はだんだんなくなり、小河内地区ではない。町でも譲り受けた土地とか広い土地とかに考えはありますか。個人とかではなく。

(回答) 町

今、氷川のデイリーヤマザキさんが閉店してしまった状況ですが、それは儲からなくて閉店したわけではなく、本部のデイリーヤマザキさんは存続させたいのですが、やってくれる方がいない状況です。先ほどお話しした働く場所がありますが、やり手がないということが非常に問題で、この前の移住・定住相談会でも本部のデイリーヤマザキさんがいらして、やってくれる方を探しておりました。町内でもやってくれる方を探しておりますが、やってくれる方がなかなかいないという状況です。先日の南氷川自治会の意見交換会でも、意見があったのですが、やはりやり手がない状況です。今、雇用環境課が改善さ

れてしまったので、比較的就労しやすい、10年くらい前の現在35歳くらいの方たちは就職氷河期で、採用がなくて、町内の就労も多かったのですが、今は逆にいろんな就労の場があり、選択肢が増えたので、介護のお仕事などに就かないという状況です。

(質問) Cさん

デイリーヤマザキとしては収益があり、費用対効果もあるが、やりたいと人はいないんですか。

(回答) 町

移住等の相談の中で、町内の連携している企業の就労情報は提供しております。各企業などの人事担当までご紹介するところまでは行っております。最終的に就労というのはご自身で選ぶものですので、割合でいえば100人に紹介し、5人くらいが希望してくれるかという状況です。

(質問) Cさん

放送などで聞く、森林保安員もなかなかいないみたいですね。公共の事業団体がコンビニをやるということはないということですね。

(回答) 町

公共としてやるということは現在ないです。まずは民間でやっていただくということを考えております。やりたい方を探しておりますが、見つからないというのが現状です。

(補足説明) 町

空家の関係でお願いしたいことがあります。これから定住サポーターが空家の状況の調査ということで、皆さんにご協力いただきながら作業を進めるという段取りになっております。ここ数年空家の実態調査ということで重ねて行ってきておりますが、今年からは活用に向けた調査のみだけではなく、地域の中で困っている空家、倒壊しそうで危険、草木の管理もされてなくて近隣で迷惑を受けているなど、そういった空家に対して調査する項目を増やし、定住サポーターが調査を進めていきますので、ご協力をお願いいたします。また、空家を所有されている方がおりましたら、町の空家バンクという制度に登録していただければと思います。この制度は空家を探している方に情報提供を行い、マッチング図るという制度です。先ほどの話もありましたが、外部からの問合せは非常に多いです。1日2、3件は必ずあります。問合せしてくる皆さんが初めに言われる希望物件はテレビなどの影響もあり、昔からある古民家、畑付きや川が近くにあるようなイメージをもって問合せをしてくる方が多いです。そういった物件はこの地域にはなかなかなくて難しいとご案内します。いろんな話を進めていくと理解をしてもらえます。それだけではなく、最初から物件を購入し、生活の拠点をこちらに移すというのはハードルが高いが、一定期間、物件を借り、生活の体験をしてみて、次のステップに進みたいと考えている方もおりますので、この地域にある空家を条件が許してもらえらるのであれば、町の空家バンクに登録していただければと思います。多少なりとも家賃収入を見込めるというところもありますので、ご協力い

ただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

(質問) Bさん

空家について木とか草とかの状況も調査してもらえますか。

(回答) 町

一度、定住サポーターで調査し、全体的に取りまとめ、その後2次調査ということで、別の職員が調査に入り実態調査を行います。

(質問) Bさん

草が繁茂していたり、倒壊するのかなど、なかなか民間では難しい部分もあり、行政のお手伝いもしてほしいと思っております。

(回答) 町

平成29年3月に奥多摩町空家等対策基本条例というものづくり、近所の皆さんに迷惑をかけるような状態の空家を特定空家と呼ぶようにしております。そういう状況にあるのかないのかということはこの条例の中の奥多摩町特定空家認定審査会で判断させていただいて、特定空家と認定されますと、町の方から所有されてる方または管理されている方に助言、指導、勧告と段階を追ってアプローチし、その状況の解消を図るという体制をとっております。そのような情報がありましたら、定住サポーターに情報提供をよろしくお願いいたします。

(質問) Dさん

がん検診について、高齢者が健康でいようということがありますが、がん検診は1年おきなので、毎年検診を行うことはできないのでしょうか。子どもについては手厚く行っており、効果も出ているようなので、いいのですが、高齢者の健康のことも考えるならそういったこともどのように考えられているのですか。

(回答) 町

がん検診が1年おきということですが、これは国の指針であり、国の根拠に基づいて毎年行わなくてもいいのではないかとこのことについて行っておりますので、町が実施したいと言えば実施できるが、毎年行わなくてもリスクは高まらないという根拠で行っている施策です。こちらの方で受けていただきたいのが特定検診で、40歳以上の国民健康保険の方はどなたでも受けられるのですが、後期高齢の方も受けられます。これは毎年、行っておりますので是非受けていただきたいと思っております。職場などでも定期検診がありますので、是非活用していただきたいと思っております。奥多摩町の場合国保に限らず18歳以上の方でしたら、検診を受けられる制度がありますが、受診率は高くないので、検診していただければと思います。また、年に1回は検診をお願いいたします。

以上

少子高齢化・定住化対策意見交換会（白丸自治会）

- 日 時 平成 30 年 7 月 10 日（水） 19：30～21：00
- 場 所 白丸生活館
- 住民出席者 16（男 14 人、女 2 人）
- 町出席者 4 名

●意見交換内容

（質問） Aさん

転入者を増やさないといけないといいながら、奥多摩に生をうけた町職員が町外から通っているのが理解できない。家庭の事情等あるのは分かるが、税収の減にもつながってしまう。

（回答） 町

そのことについては、真摯に受け止めています。町の職員約 130 名のうち、約 40%が町外から通っています。近年採用している職員には、外から応募してくる職員も多くなってきているので、町内で活躍してもらうため、職員用の住宅等を整備し、町内に在住してもらうよう勧めています。また、町外在住の職員については、どこの自治会にも属さないのので、定住サポーターに任命し、どこかの自治会に入ってもらいお手伝いをするという体制を取っています。

（質問） Bさん

若者住宅を新しく作る前に、現在町にある 480 件の空き家について、リフォーム等して優先して活用する方法はないのか。

（回答） 町

空き家については、所有者に意向調査を行っています。また新たな仕組みとして数年前に町の補助金を作り空き家の活用をしてもらっています。補助金の制度は、町に寄付していただくと最大 200 万円、空き家バンクに登録してもらくと若者用であれば最大 50 万円、通常の空き家バンクに登録してもらくと最大 10 万円が交付される、という仕組みになっています。空き家所有者からの相談の中に相続の問題やゴミの片づけがネックになって活用できないという相談があったので、活用しやすくなればと思い交付金を創設しました。ただ相続では、所有者が何代も前の方になっていると非常に時間がかかります。固定資産税もかからないのでそのままの方が多いという中で、空き家バンク等の登録に繋がらないという現状があります。一方、相談者の多くの方が賃貸の空き家を希望している方であるので、まずは受け皿として町営若者住宅を作っています。小丹波第一や坂下の物件の土地は、

町への寄付物件であり、用地交渉や新たにお金がかかるということがないため、優先的に未活用の町有地を利用しています。将来的には土地を購入したりすることも考えていきたいと思います。空き家については、今年度調査し活用できるものは活用したり、危険空き家にならないようしていくので、是非活用できる空き家があれば情報をお寄せください。

(補足回答) 町

空き家については平均1日に2~3件の定住の相談を受けている。やはり賃貸希望者からの問い合わせが多い。いきなり不動産を購入するのではなく、2~3年体験的に住みたいという方が多い。是非、賃貸の空き家があれば情報をいただきたい。ただ町内に物件はあるが、相続の関係でなかなか時間がかかるものが多いということなので、粛々と進めていただくようお願いしています。

(質問) Cさん

第5期長期計画の中で、白丸は定住促進ゾーンになっているが、町有地がないと若者住宅の建設は難しいのか。土地はいっぱいあるので、寄付すれば建設も可能なのか。

(回答) 町

第5期長期計画で規定し、具体的には定住促進計画に沿って行っているが、白丸地区の土地については、いただければ建設の検討をしていきたいと思うが、白丸地内については物件あまりない状態、空き家相談あるが、ある一定の規模の土地がないので、町としては町が直接用地交渉して売買すると時間がかかるので、今あるものを活用するのがお金もかからず即効性がありますので、協力いただいたところからやっている状態です。

(質問) Cさん

白丸地区については、今のところ計画がないということですか。

(回答) 町

白丸地域については、現在相談もないので、計画はないです。ただ、空き家については、約30件近く空き家があるので、それを定住対策のいなか暮らし支援住宅や若者定住応援住宅として活用するという方法はあります。ただ、やはり相続ができてなくて移転登記ができない場合、土地と家屋の所有者が別で両者からご理解いただけない場合、土砂災害防止法が厳しくなっているので地形的な問題があるということで、お断りするケースもあります。それ以外は町の方で相談に乗っていきたいと思っています。

(質問) Dさん

定住化に力を入れてもらっていますが、住んだ場合、就労が限られている。青梅や立川まで通勤できるが、町自体に企業を誘致する考えはあるのか。

(回答) 町

町の就労状況については、企業の就労担当者と話をさせてもらい、4月15日に12企業に

参加をしていただき移住・定住相談会を実施しました。雇用環境は、現在日本全国で改善されていて、正職員を募集しても来てくれる人がいません。町内 4 か所の老人ホームは常に人手不足状態です。鉱工業も正職員の成り手がいません。氷川のデイリーヤマザキも店を閉めてしまったが、売上げの問題ではなく、やってくれる人がいないということで閉店になっている状況です。企業誘致も大事ですが、町内の企業に町内の多くの方がお勤めしているので、まずはそこを守っていく。今ある企業に人に入ってもらい、充実させていく必要があります。また、定住相談者の 8 割強の方が、町外へ通勤することを前提で相談してくる人が多いです。ただ、1 割から 2 割の方については、遠方からの転入者で、離職してきますので、町内 12 企業を紹介しますが、なかなかマッチングしないというのが現状です。企業誘致については、小河内地区にはグランピングを誘致しました。あそこの用地は寄付物件です。また、古里中跡地には日本語学校を誘致していますので、今後もできる限り企業誘致については実施していきます。今若い方が工場等で働くのは難しい時代であり、反面インターネット等を使って自宅のできる業種や小規模の企業については、町独自の小規模事業者の優遇措置という補助制度も作り、町に来てやっていただく仕組みも作って PR しているところです。

(質問) Bさん

働く場所対策として、白丸駐車場を有料化したらどうか。シーズンには観光客で満車となるので、雇用対策にもなると思う。

(回答) 町

町内の有料駐車場は、氷川キャンプ場、寸庭橋の手前、役場本庁の横と 3 か所あります。有料化するには条例で定める必要があります。今地域の方から、こういうご意見があったことについては観光振興ということになりますので、担当課の観光課に持ち帰り、検討いたします。

(質問) Bさん

東京都の補助金を使い、杣入線の道を開設したが、その時一部の住民の話を聞き、花壇を整備したが、今現在町でも自治会も、どこも管理していない状況であり、草が伸びている。白丸駐車場を有料にしたら、その管理もできるのではないか。今は、自分がボランティアで草刈をしている状態です。

(回答) 町

担当課に持ち帰らせていただきます。

(質問) Eさん

雇用の問題について質問です。昔から町に住んでいる人の高齢者の雇用を考えて欲しい。昔は定年が 60 歳だったが、現在は 65 歳になりつつあります。そして今、企業によっては

高齢者を積極的に雇用しているところがあります。奥多摩にいる 80 歳ぐらいまでの元気な方の雇用を考えて欲しい。例えば道の駅を丹三郎の直売所や小河内の駐車場に作って、高齢者が作った野菜を持ち寄るとか、奥多摩湖上に巨大アスレチックを作るとか、高齢者の雇用の場を作って欲しい。働くことで高齢者の生きがいとなり、生きがいを持つことが健康にも繋がると思う。古里中を奥多摩中にして、奥多摩中を温泉施設にして欲しかった。

(回答) 町

現在シルバー人材センターの会員が 160～170 名います。しかしシルバーも高齢化になりつつあり、そのうち実際就労していただいている方は半分位の方です。シルバーでも仕事を頼みたいが、やり手がいない状況であります。是非、退職されて時間の余裕がある方がいれば、会員登録をしていただきたいと思います。

(回答) 町

道の駅については、議会で以前から質問があがっているが、道の駅の設置については国交省の基準があり、合致する場所がない状態で、難しい状態です。アスレチックについても、ジップラインが導入できないかということで古里中跡地でも検討をしたこともありますが、運営会社に見てもらったところ、難しいということで、入ってくれる企業がありませんでした。今のご提案に代わるものでも、奥多摩町でできるものがあれば、引き続き今後検討し、誘致していきたいと思えます。こちらも担当課に伝えたいと思えます。

(意見) Eさん

そういうのは、町の中だけで考えるのではなく、プロ、外部の人に頼むが一番だと思います。そうすれば、成功すると思う。

(質問) Bさん

色々説明されてはいるが、はっきり言ってやる気がないだけだと思う。小菅村や丹波山村は道の駅ができています。町ができないのはおかしい。小河内でも丹三郎でもできると思う。町議を通じて数年前から意見を言っているが、町からの回答は「出来ない」ばかり。やる気の問題だと思う。

(回答) 町

道の駅については、小河内の大麦代で検討をしたこともあったが、あそこは町の土地ではないので、難しかった。もう一つは、丹波山村、小菅村は、広い面積があったので出来た経緯がある。丹三郎についても、以前規模が取れるか等、調査検討しましたが、結果難しく、現在の状況になっています。こちらについては、議会でも質問が出ていましたので、調査をした結果、なぜできないか等の理由についても結果をお伝えしています。

(質問) Bさん

小河内、丹三郎に道の駅ができないのは分かったが、他の場所ではどうですか。

(回答) 町

町の中に広い場所がなく、広い場所を作るとしても、奥多摩町全体が秩父多摩甲斐国立公園になっているので、その中で造成をする場合に費用的な部分が問題となり、また国立公園の中で大規模開発をして良いのか悪いのかという部分もあります。昭和30年に奥多摩町として合併して以来、自然環境を残していこうということで、大規模開発をこななかったというよりは、しなかった経緯もあります。Bさんの意見は十分わかりますので、所管課に持ち帰り、それに代わる活性するものを検討するなどが必要なと思います。

(意見) Bさん

町には奥多摩湖、日原鍾乳洞等目玉があるので、それらを利用するなどして、考えて行って欲しい。

(質問) Dさん

今盛んなものとしては、カヌーや山登りがあるが、これらの観光客が町にどれだけお金を落としていってくれているのか。

(回答) 町

2020年のオリンピックがあり、インバウンド観光ということで、外国人の方や自然散策する人が増えているので、町もそこに力を入れている。効果としては、観光客の入込客数の調査をしたら200万人を超えました。ここ数年で170万人から30万人回復をしていることとなります。また、ニーズにあったことをやることで観光客が増えてきています。経済効果については、一番大事なところですが、なんで観光客を増やすことが大事かと言いますと、実は観光客が来ることによって、JRや西東京バスが維持できるという効果があります。町民だけがJRやバスを利用するだけでは、利用率が低い。子どもが少なくなっている中で、高校に行くための定期も買わない。これが、観光客が来ることで、JRやバスを利用してもらうことによって、JRやバスの収益になる。JRや西東京バスが存続することは、住民の皆さんの足の確保につながっているのです。観光客の誘致についてもご理解いただきたい。

(意見) Bさん

白丸には、発電所のところ、魚道があるところに、広場があるので活用できると良い。以前、あそこで木村奨学会に土地を借りて建材をやっていた。資料館を作るということで追い出されたが、いまだ何もできず。同じようなことを繰り返さないで欲しい。

(質問) Dさん

観光としては、一つの案として、花の名所を作ったらどうか。羊山公園、サマーランドのアジサイなど。簡単に人を呼べるというのには良いのでは。

(回答) 町

今、奥多摩湖のソメイヨシノは、一目1万本といわれたが、寿命が50年程度なので、衰退してきているので、東京都が現在補植をしている。小規模なところでは、「花の里事業」をやっている。地域の方が私有地でやるのであれば補助金もある。緑化財団からも自治会長宛にお知らせしていますので、花木の斡旋も無料で行っていますので、活用していただければと思います。

(質問) Fさん

今日の説明を聞くまでは、若者住宅など子どもに対して手厚いと思っていたが、数字を出して説明を聞くと高齢者にもお金を使ってくれていることが良く分かった。予算の許す限り、引き続き高齢者を見捨てずに、手厚くしていただきたい。資料の16ページについて、町の後期高齢者医療の一人当たりの医療費は80万から85万円とありますが、雨が降っているから病院に行ってみようということで、送迎バスを使って件数が増えるということもあるのではないかと。これだけの金額がかかっている中で、今後どういう対策をして医療費を減らしていこうと思っているのか。

(回答) 町

子どものいる世帯についての補助は、一度支払ってもらったものに対して、直接的に補助をして支援しており、高齢者に対しては、総合的に支援をしているということで、方法が違うこともあり、高齢者に対しては、見えづらい所があるので、今回数字を出して理解していただければと思います。医療費については、町内の4つの医療機関がありますが、外出支援サービスの登録をしてもらおうと、社協で玄関から病院まで送迎をしております。その中で一番利用が多いのは奥多摩病院です。古里診療所は個別で送迎をしております。また澤井診療所もやっております。町内だけでなく、町外の医療機関を利用している方もいます。高齢化が進みますと、医療にかかる方も増えると思いますが、予防と言うところでは、国民保険に入っている40歳以上の方であれば、年1回の特定検診を受診できます。また後期高齢者になると、同じように無料で特定検診を行っているのでは是非受診して欲しいです。また健康相談事業として地域の生活館等で、保健師が介護予防体操等を行っています。まずは予防をしてもらい健康でいていただき、長生きしていただき、介護保険を使わないで済むように是非お願いしたいです。

(質問) Fさん

病院に行くと、その日に請求があるが、その何倍かを町で払ってくれているということですか。

(回答) 町さん

3割が本人負担として、窓口で支払っていただいています。7割が町で負担しています。介護保険については、9割が町の負担となっています。医者にかかるなどは言いませんの

で、是非健康でいていただきたい。

(質問) Fさん

奥多摩の5つの駅は町の宝だと思っています。皆の知恵で5つの駅をうまく利用できないかと思います。

(回答) 町

以前5駅物語ということで、町の計画の中で、駅をきれいにしていこうということで、5つの駅のトイレを設置しました。また古里駅は、合築駅舎と、北口改札の整備を行ってきました。今、JRの基本方針で、今まではシルバー人材センターにお願いして、改札の補助等を行っていましたが、今はシルバーの仕事も打ち切られ、切符すら買えなくなってしまったという状況について、町としても町長として、危惧をしております。JR八王子支社に要望活動をしております。ただ町だけでは難しい所もあるので、西多摩の広域行政圏と一緒に改善要望を出して、粘り強くやっていきたいと思っています。町ベースできることとしては、観光の窓口として奥多摩駅前で行う奥多摩マルシェ、100縁市をやったりと駅前の活性化を図っています。今、提案いただいたご意見も担当に持ち帰りしたいと思います。

(質問) Fさん

駅周辺も草が生い茂ったりしているが、あれもボランティアを集うなりして、JRと意見交換をしながらJRに負担を掛けないようにして自らでやっていければよいと思います。もう少し観光課とか観光協会とかが働きかければ良いのでは。

(意見) Bさん

観光協会と町役場は仲が悪いからダメでしょう。

(回答) 町

今、観光協会へも事務局長として町の職員を派遣しておりますから、そんなことはないので、誤解のないようお願いいたします。

以上